

國
憲
意
見

鳳詔一降立憲ノ事定マル、吾儕臣民タル者、憲
 法ヲ審査討究スルハ豈ニ今日ノ急務ニ非ズ
 ヤ、斯篇ハ是レ日報記者ガ嘗テ之ヲ草シ東京
 日日新聞ニ載録セシモノニテ號シテ國憲意
 見ト云フ、其論極メテ詳且密、其文最トモ雄且
 快、世ノ此篇ヲ閱スル者精讀熟誦其意ヲ領セ
 バ少補ナシトス可カラズ爲メニ編シテ冊子
 トナシ以テ世ノ志士ニ示スト云爾

編者識



言

何ゾヤ、國約憲法ナリ、國約憲法何ノ爲ニスル乎、王
 ルガ爲ナリ、王道何ノ爲ニ國憲ヲ得テ顯彰スル
 ヲ得テ上ニ建チ民極コレヲ得テ下ニ作り國安
 内ニ保チ國權コレヲ得テ外ニ張リ禮樂政刑自
 之ヲ得テ初テ其則ル所アルヲ以テナリ、國憲何
 ヲ以テ今日ニ制定セザルベカラザル乎、國憲制定セザレバ
 國會以テ興起スルヲ得ザレバナリ、未ダ國憲ヲ制定セズシ
 テ先ヅ國會ヲ興起スルハ猶ホ柱石ヲ固メズシテ家屋ヲ築
 カントスルガ如シ、何ヲ以テ國約ヲ要スル乎、夫ノ帝勅憲法
 ノ如キ民議憲法ノ如キ俱ニ憲法ノ体要ヲ具備スルモノニ
 非ズ、唯國約ニシテ初テ上下ノ分定リ君臣ノ義明ニシテ以
 テ百世ニ渝ルコトナキノ大誓タルヲ以テナリ、此ノ大誓ハ我

國ノ古訓ナリ此ノ葦原ノ中國ハ我御子ノ知ラサム國ト言
 依サシ賜ハルノ國ナリト詔リ給ヒ又大國主神ガ天使建御
 雷神ニ答ヘテ此ノ葦原ノ中國ハ命ニ隨ヒ既ニ獻ラム唯僕
 ガ住所チバ天神ノ御子ノ天津日繼シロシメサム登陀流天
 ノ御巢ナシテ底津石根ニ宮柱フトシク高天原ニ氷木タカ
 シリテ治メ賜ハハ僕ハ百タラヌ八十間手ニ隠リテ侍ナム
 亦僕子等百八十神ハ八重事代主神神ノ御尾前トナリテ仕
 へ奉ラバ違フ神ハ非シトノ玉ヒタル古誓ニ則トルノ國約
 タルヲ以テナリ吾曹ガ國約憲法ノ制定ヲ望ムヤ敢テ今日
 ニ始マルニアラズ世運ノ進潮ヲ計リ輿論ノ傾向ヲ徵シ國
 憲ヲ制定シテ以テ國會ヲ興起シ我 聖天子ノ明詔ヲ奉ス
 ベキノ時機ノ正ニ今日ニ熟スルヲ察シテ屢々所見ヲ開陳
 セル茲ニ年アリ矣然レ臣官權ノ舊守ヲ以テ尊王ノ事ナリ

ト思フモノハ國憲制定ヲ見テ皇室ヲ辱シメ奉ルノ邪說ナ
 リト誤想シ民權ノ激烈ヲ以テ改進ノ舉ナリト惑フモノハ
 國憲制定ヲ見テ國會ヲ妨グノ迂策ナリト妄信スル世上未
 ダ其人ナシトセズ是レ實ニ其國憲制定ハ王道ノ由テ顯彰
 スル所タルヲ知ラザルガ故ニ之ヲ邪視スレハ皇極ノ罪人
 トナリ之ヲ迂視スレバ民極ノ罪人タルヲ悟ラザル者ナリ
 ト云フベシ

夫ノ國憲ハ萬世一系ノ皇統ヲ不窮ニ繼承センガ爲ニ帝室
 ノ政權ヲ鞏固ナラシメンガ爲ニ國會ノ議權ヲ樹立セシメ
 ンガ爲ニ司法ノ法權ヲ公正ナラシメンガ爲ニ人身ノ權理
 ヲ同等ナラシメンガ爲ニ人文ノ自由ヲ享有セシメンガ爲
 ニ皇國ノ獨立ヲ保存センガ爲ニ國家ノ安寧ヲ維持センガ
 爲ニ其制定ヲ今日ニ要ムルナリ國家安寧ナクシテ可ナル

乎皇國獨立セズシテ可ナル乎自由享有セズ權理同等ナラズシテ可ナル乎法權公正ナラズ議權樹立セズ政權鞏固ナラズシテ可ナル乎抑モ皇統不窮ニ繼承セラレズシテ可ナル乎之ヲ可ナリト云ハゞ則チ亂臣賊子ナリ天人俱ニ許サハルノ罪人ナリ一ノ之ヲ不可ナリトスルアラバ則チ國憲制定ヲ冀フノ人ナリ之ヲ冀フノ人ハ則チ尊王ノ忠臣ナリ愛國ノ孝子ナリ民權ノ良友ナリ忠邪曲直ノ別實ニ茲ニ定マルモノナリ苟モ忠孝之大義ヲ重ズルモノハ今日ニ當リテ國憲制定ニ同意ヲ表シ以テ我王道ヲ顯彰セザルベカラザル也

或ハ國約憲法ヲ難ズルモノアリ云ク憲法ヲシテ國約ノ制定ヲラシメバ憲法ヲ以テ我皇統廢立ヲ制定スルニ至ランモ未ダ知ルベカラズ此事如何吾曹コレニ答テ云ハン我皇

國ノ臣民三千三百有餘萬未ダ曾テ一人ノ廢立ヲ言フモノアルヲ聞カズ其純忠至誠ハ宇内ニ冠絶スルニ足ルモノナリ惡ゾ憲法ヲ制定スルノ日ニ於テ勿体ナクモ臣民ノ分ヲ以テ君上ノ帝位ヲ左右シ奉ルノ議ヲ發スルモノアラシヤ或者ノ過慮モ亦甚シト云フベシ然レモ此ノ慮モ亦皇室ヲ尊崇スルノ意ニ外ナラザルヲ以テ吾曹敢テ之ヲ今日ニ斥クルヲ喜バズ姑ク其意ヲ推テ之ガ計ヲ爲サバ國憲制定ノ國議ヲ開クノ初ニ於テ今茲ニ制定スベキ國憲ハ云々ノ爲ナリト開列シ是ニ違犯スルノ制定アルベカラズト勸諭アラシムハ誰カ之ヲ違奉セザルモノアラシヤ此議ヤ吾曹曾テ之ヲ論述シテ以テ輿論ニ問ヒ輿論モ之ヲ非トセザル所ナレバ之ヲ爲スハ固ヨリ難ニアラザルナリ然バ則チ或者ノ過慮モ亦今日ニ要スル所ナクンバ其過慮ハ毫モ國約憲

法ノ制定ヲ妨碍スルヲ得ザル者ナリ

憲法ハ根本大法ナリ政事人事ニ關スル法律ノ因テ生ズル所ナリ國体ヲ維持シ制度ヲ組織スルノ綱領ナルガ故ニ凡ソ人民アリ政体アルノ國ニ於テハ其君權獨裁ト共和政治ト君民同治トノ別ヲ論ゼズ國アレバ則チ憲法ナカラザルベカラズ憲法ナケレバ以テ其國体ヲ維持シ其ノ制度ヲ綱張スルコト能ハザルガ故ナリ而シテ異ナル所ハ其ノ成文憲法ト不文憲法トノ間ニアルナリ恭シク惟レバ我國乾坤初テ分レ陰陽漸ク開ケシ時ヨリシテ百王相續キ萬神蕃息シ給ヒ安河ニ議テ天下ヲ平ケ小濱ニ論シテ國土ヲ清メ給ヒシチ仰視スレバ其時ヨリシテ不文憲法ハ已ニ上下君民ノ間ニ行ハレテ相共ニ渝ラセラル、コト無カリキ降テ中世ニ至リ聖德太子ノ憲法十七條實ニ成文憲法ノ濫觴ナリ而シ

巳

テ律令格式ノ法律制度ハ時勢ニ應ジテ損益スル所アルモ其根本大法タル憲法ハ國体ト共ニ變ルコトナカリキ世ハ武門政道ニ移リタルモ貞永式目、建武式目、政所壁書、早雲升一ケ條、信玄百ケ條、朝倉十七ケ條、元親百ケ條、評定所掛看板、憲則十一ケ條ノ如キ其精粗細大ノ別ヲ論ゼズ概テ成文憲法ノ体ヲ爲シタルモノナリト云ハザルベカラズ由是觀之我國ニ成文憲法アルヤ寔ニ久シ而シテ吾曹ガ今日ニ制定セシコトヲ冀フ所ノ國約憲法ト雖モ亦別ニ之ヲ外ニ求ムルニ非ズ君民同治ノ自由政治ヲ施クニ欠クベカラザルノ綱領ヲ國約シ之ヲ成文憲法トナサント欲スルニ在ルノミ即チ其綱領ノ要目ヲ臚列シテ之ヲ世議ニ質スト云爾

庚

持/4
971

國憲意見

第一章

國憲ノ綱領ハ曰ク帝室曰ク公法曰ク政府曰ク
議院曰ク司法コノ五綱領ミナ其條目ヲ以テ其
要ヲ制定スベシ吾曹今試ニ我建國ノ体ニ則リ
以テ君臣同治ノ政ヲ施クニ緊要ナリトスルノ
所見ヲ臚列シテ大方ノ教ヲ乞ハン

帝室

皇統ハ神種ナリ我日本國ノ帝位ハ天照大御神
ノ御子孫ノミ天日繼ニ立セ給フベキ事

是レ我ガ建國ノ体ニ於テ尤モ貴重スベキノ第一大義ナ

リトス此ノ葦原ノ中國ハ我御子ノ所知國ト言依シ賜ヘ
 ル國ナリ萬世一系ノ皇統ヲ天壤ト共ニ不窮ニ繼承シ奉
 ランコ臣子ノ本分ナレバ苟モ國約憲法ヲ制定スルニ當
 リテハ開卷第一ニ此條ヲ明記シテ以テ帝位ハ人臣ノ覬
 覦スベキ所ニアラザルヲ知ラシメ若シ大逆不軌ヲ企ル
 ノ賊アラバ啗ニ帝室ノ朝敵タルノミナラズ憲法ノ國賊
 タルコトヲ知ラシメザル可カラズ

皇嗣ヲ定ムルハ叡慮ノ隨ナリト雖モ皇嫡ヲ以
 テ皇太子ニ立テ給フヲ國例トス皇子ナケレバ
 皇女若クハ親王ヲ皇嗣ニ立テ給フベシ若シ御
 遺言ナキ時ハ上院ノ國議ヲ以テ諸親王ノ中ヲ
 撰ビ皇統ヲ繼カセ參ラスベキ事

皇嗣ノ御事ヲ陽ハニ憲法ニ於テ制定センハ天威ヲ冒ス
 ノ恐アレハ叡慮ニ隨ヒ奉ランコト妥當ナルベシト雖モ庶
 子親シニ嫡ヲ疎シ左セル不徳ノ御振舞モナキニ皇太子
 ナ廢シ愛ニ溺レテ庶皇子ニ帝位ヲ讓リ給フガ爲ニ人倫
 ナ紊リ國亂ヲ醸セシコト和漢其例少ナシトセズ故ニ皇嫡
 ナ以テ皇太子ニ立テ給フヲ國例トスト憲法ニ明書セザ
 ルヘカラズ若シ皇子マシマサズバ皇女ヲ以テ皇嗣ニ立
 テ給ハンモ妨アルベカラズ外國ナドニハ男統相續法ト
 云ヒテ女統ヲ立テザルコト恰モ我國前時ノ武家ニ同キ國
 法アレモ皇國ニ於テハ推古皇極齋明持統元明元正孝謙
 稱徳ノ八帝近クハ明正後櫻町ノ二帝ミナ皇女皇妹内親
 王ヲ以テ大統ヲ承ケ給ヒタレバ御傳承ノ間ニ於テ女帝
 ハ我國ニ於テ固ヨリ其例アリトスルナリ但シ皇女ヲ措

キテ御近親ノ親王ヲ皇太子ニ立テ給ハンモ叙慮ニ任セ奉ルベシ臣子ノ分ニ於テ其順序ヲモ憲法ニ豫定センハ憚ナキニアラザルナリ然レモ若シ皇子皇女マシマサス皇嗣ノ御遺言モ無クテ不諱ノ御時ニ至リタラシハ其時ヨソ上院ノ國議ニテ皇族諸親王ノ中ヨテ聰明叡智九五ノ徳ヲ備ヘ給フ君ヲ撰ビテ帝位ニ即カセ參ラスベシ是レ皇族互ニ帝位ヲ爭ヒ給フノ内亂ヲ豫防スルニ緊要ノ制定ナルベシ

帝室ハ申スニ及バズ皇族ノ歳費ハ必ラス相當ニ國庫ヨリ之ヲ供奉スベキヲ

我國ハ皇統ノ知シメス國ナリ大國主神ノ大誓ヲ以テ國王人民ヲ舉テ天孫ニ奉リタル中國ナリ此ノ建國ノ体ニ

於テハ如何ナル場合タリモ帝室并ニ諸皇族ノ歳費ハ人民ノ租税中ヨリ供奉スルヲ臣子ノ分ナリトス但シ國庫歳出ノ定額ヲ議決スルハ議院ノ權内ニアルヲ以テ他日或ハ非常ノ節略ヲ宮内省ノ定額ニ及ボシ十善萬乘ノ御稜威ヲ保チ給フニ乏チ告ルヲアリテハ大ニ國体ニ戾ルヘシ無用ノ奢侈ハ尙ブベキニ非ザレモ帝王ノ貴チ欠クザル程ニハ之ヲ供奉シ參ラセザルベカラズ是レ之ヲ臣子ノ節ト謂フナリ故ニ吾曹ハ必ズ相當ニ國庫ヨリ供奉スベキ意ヲ憲法ニ明示セント欲ス

皇族ハ三世ニシテ止ム四世以下ハ姓ヲ賜フテ人臣ニ列セラルベキヲ

皇族トハ帝室ノ親族ヲ云フノ義ナリ皇統已ニ神種タリ

竹ノ菌生ノ末葉マデ孰レモ人間ノ種ユアラザレバ凡ソ
 皇族ハ其親王ノ宣旨ヲ蒙ラセラル、ト否チ問ハズ降誕
 ノ時ヨリシテ國法ノ特例ヲ得タマフ、勿論ナリトス然
 レル前條ノ如クニ皇族ノ歳費ハ必ズ相當ニ國庫ヨリ供
 奉スル以上ハ類ニ皇族ノ數ヲ多クシ會計上ニハ皇族歳
 費ノ出額ヲ増シ國法上ニハ特例高等ノ多カラシムハ如何
 アルベキ乎去レハ古ヨリ我國ニ於テ皇子皇孫マデチ皇
 族トシ皇曾孫ヨリシテ人臣ニ列セラル、一歴朝ノ不文
 憲法ヲレバ成文憲法ニ於テモ凡ソ親王ト稱シ王ト稱シ
 宮ト稱スベキハ皇子皇孫ヲ限リトシ其以下ハ必ラズ姓
 ヲ賜ヒ人臣ニ列シ特別歳費モ此限ト共ニ止ム、一ト制定
 スベキ歟但シ姓ヲ賜フテヨリ直ニ庶人タラシムルハ如
 何トノ詮議アラバ夫ヨリ三世ノ間ハ蔭襲ノ貴族トシ天

子ヲ出ル七世ニシテ初テ庶人タルノ制ヲ立ンモ亦敢テ
 不可ナカルベシ、一タタ我國中世以降ノ制ニ據レバ皇子
 皇孫ト雖モ一タビ姓ヲ賜フ時ハ人臣ニ列シテ復タ皇族
 ノ特例ヲ得給ハズ是レ蓋シ親王若クハ王ニ任セサセ
 給フ官職ハ中務卿式部卿兵部卿彈正尹大宰帥常陸大守
 上總太守上野太守ナド其例限アリテ藤氏ノ相權ニ歴セ
 ラレテ大臣ノ顯職ニ任ズル、一チ得タマハザルガ爲ニ無
 念ナガラモ親王ノ貴チ棄テ、人臣ニ降り文武ノ要路ニ
 立ツチ不得巳トセラレタリ然レモ是レ中世相門爲政ノ
 弊ニ出ルモノニシテ我國上世ノ制ニアラズ夫ノ上世ニ
 在リテハ皇太子皇子皇孫ヲ以テ攝政トシ大臣トシ大將
 トシ給フタル、一其例尤モ多シトス今ヤ上世ノ制ニ復シ
 現ニ皇族ニシテ文武ノ職ニ任シ給フカラハ設ヒ姓ヲ賜

フコアリヒ三世ノ間ハ皇族ニ列セラル、コト制定シ以テ皇統親疎ノ分チ正クベキナリ將々現時世襲ノ四親王家ノ如キハ特別ノ制定ヲ以テ世襲皇族ト憲法中ニ明示アルモ亦妨ナカルベキ歟是等ハ其時ノ評議ニアリテ臣子ハ之ヲ叡慮ノ隨ニ任セ奉ルコト願フベシト信ズ此餘帝室ニ關スル條件ニシテ皇統ヲ萬世不窮ニ繼承スルガ爲ニ緊切ノ要目アリテ之ヲ國憲ニ明記スベシトセバ苟モ其政權讓權法權ニテ牽制セザル程ハ之ヲ評議シテ幾箇條ヲ重ヌルニ至ルモ吾曹ハ固ヨリ之ヲ非議セザルノミナラズ輿論ノ歸着スル所ハ必ラズ誓テ之ヲ贊成スベキ也

第二章

公法

凡ソ日本國民ハ其族藉其位階ノ別ヲ問ハス法律ニ對シテハ同等ノ權理タルヘキヲ

法律ニ對シテハ國民ミナ同一ノ權理ヲ有スルコト是レ人身ノ權理ヲ保護スルノ第一義ナリトス貴族タルガ故ニ罰刑ニ換ルガ如キ除族ニ止ムルガ如キハ同等ノ權理ナリトハ云フベカラザルナリ又貴族タルノ故ヲ以テ國民負擔ノ義務タル租稅兵役等ヲ免サル、コトナドアルベカラズ 天皇三后皇太子ハ固ヨリ法律ノ及ブ所ニアラズト雖モ皇族ヨリシテハ法律ニ服從スルノ義ヲ守リ給ハザルベカラズ況ヤ人臣タルニ於テヤ但シ皇族ハ兵役ヲ免カレ給フノ特例アリテ不可ナカルベシト雖モ其他

ナリ皇族ト雖ニ租稅ノ負擔ヲ免レ給ハシハ專願ル妥當
ナラザルガ如シ但シ國稅地方稅ノ徵收ヲ議決スルニ當
リ國會若クハ府縣會ノ議ニ於テ免除ヲナスコトハ決シテ
此條ニ抵觸スルニアラズト信ズルナリ

日本國民ハ文武ノ官職ニ就クニ同等ノ權理ヲ
有スベキコト

現時ニ於テハ文武ノ官職ミナ人材ヲ登庸スルヲ專トシ
復タ昔時文武ノ官職ハ武門ノ專有タルノ時ニ似ザレバ
今日ニ於テハ此條ヲ憲法ニ明示スルハ無用ノ如クニ思
ハルレト封建藩閥ノ遺風未ダ盡ク蟬脫セリト斷言シ難
キノ狀アレバ寧ロ此條ヲ插入シ現當ノ爲ニ人權ノ正所
ヲ公明ニスルヲ可ナリトスベシ

法律ノ義務ハ其則チ除ヘ給フコトアルベカラス又華族ニ
ハ上院ニ於テ糾彈ヲ蒙ルノ特例アリ奏任以上ニハ親カ
ラ詞廷ニ出頭セザル等ノ特例アリ代議士ニハ會議中及
ビ會議ノ前後一月間ハ逮捕セラルベカラザルノ特例ア
リ勳章ヲ帶ルモノニハ庶人タリト有位有官ノ待遇ヲ蒙
ルノ特例アレト是等ノ特例ハ同等權理ノ義ヲ妨ルモノ
ニアラズ如何トナレバ其責罰ニ至リテハ更ニ特例ノ故
ヲ以テ之ヲ免ルコト能ハザルヲ以テナリ

日本國民ハ其資産ノ厚薄ニ應シテ國用ノ支給
ヲ負擔スベキコト

是レ國家政ヲ爲スノ費用ハ人民ニコレヲ負擔スベキノ義
ヲ明示スルノ條ナリ全國中無稅ノ人ナカラシムルノ義

日本國民ノ自由ハ同一ノ保護ヲ受クベシ法律
ノ正示スル所ニ非サレバ甲乙ノ別ヲ論セス逮
捕糺彈處刑ヲ被ル可カラズ且ツ一タビ處斷ヲ
得タルコトニ再度ノ糺彈ヲ受クベカラサルコト

是レ人身ノ權理ヲ保護スルノ要目ナリ人身ノ自由ニ關
シ誰レ彼レノ別ハアルベキコトナラズ法律ニ正條ナキ者
ハ何等ノ所爲ト雖凡之ヲ罰スルヲ得ズトノ刑法ニ明示
セラレ拘引拘留逮捕糺彈ノ方法ハ治罪法ニ詳密ナレバ
之ニ外レタル逮捕糺彈處刑ハ不法ナリ之ヲ許スベカラ
ザルナリ又一タビ處斷ヲ受ケタル事ニ關シ上告再審ノ
期ヲ過テ後ニ至リ再度ノ糺彈ヲ受ルコトアリテハ其身
ヲ安ズルコト能ハザルノ恐アリ決シテ之ヲ許スベカラザ

ルナリ

日本國民ハ自由ニ其歸依スル所ノ宗教ヲ信仰
シ各宗同一ノ保護ヲ受クベキコト

宗教ノ自由中最要ノ自由ナリ神道ニセヨ佛教ニセヨ外
教ニセヨ苟モ其教法ノ法律ニ違犯シ世道ヲ害セザル間
ハ人民各自ノ歸依スル所ヲ奉セシメ政治ハ敢テ之ニ干
渉スベカラズ又甲宗ニハ特別ノ保護ヲ與ヘ乙宗ニハ之
ヲ奪フ等ノコトハ一時ノ政略ニ利アリ凡其人ノ自由ニ
害アルヲ以テ之ヲ許サザルナリ是レ各宗同一ノ保護ヲ
要スル所以ナリ將ニ歐洲諸國ニハ其國教ト云フモノア
リテ或ハ特例ヲ國教ニ與フルコト今日ニ於テ猶ヨレヲ實
行スト雖凡其國教アルハ之ヲ禁ムルニ非ズシテ勢ノ不

得已ニ成ルモノナリ我國ニテハ國教ヲ定メザルコソ幸
ナレバ早ク憲法ヲ以テ各宗同一ノ保護ト制定シ如何ナ
ル事アリト國教ヲ定ムベカラザル也

日本國民ハ法律ニ抵觸セサル限ハ自由ニ其意
見ヲ演說シ自由ニ意見ヲ印行スルノ權理アル
ベキナリ

是レ言論ノ自由ヲ確定スルノ條ナレバ憲法ニ之ヲ明示
センナリ勿論ナリ集會條例新聞紙條例ノ寬嚴ハ其時勢ニ
應ジテ制定ヲ異ニスルコトアルベケレト決シテ全ク人民
ヨリ其自由ヲ奪ヒ餘地ナキニ至ラシムコトヲ得ザルモノ
ナリ既ニ法律ヲ以テ其餘地ヲ止ムル以上ハ餘地ニ在リ
テ自由ヲ樂シム其妨アルベカラザルナリ

日本國民ノ財産ハ其所有權ヲ擾亂スベカラサ
ルナリ

土地家宅家財其餘凡百ノ財産ハ其不動産ト動産トニ論
ナク其ノ事主ノ所有物ナレバ政權ヲ以テ之ヲ沒収シ若
クハ侵奪シテ其所有權ヲ擾亂スベカラズ其事主ノ爲ニ
其權ヲ保護スルゾ政治ノ主眼ナリ或ハ官有財産ハ此條
外ナリトシ其與奪ハ行政權内ニアルガ如クニ誤思スル
モノアルベシト雖ト畢竟官有財産トハ國民ノ共有財産
ニ下スノ名ナレバ國民ノ共有財産モ一個人ノ私有財産
モ其所有權ノ擾亂スベカラザルニ至リテハ則チ同一ナ
リトスル故ニ是條ヲ制定シテ其共有ト私有トヲ問ハズ
國民ノ財産所有權ヲ確乎マラシムルハ緊要ノ事ナルベ
シト信ズ而シテ家宅ハ其人ノ城郭ナリト云フノ自由モ

亦此條ヲ得テ判然スベキナリ

日本政府ハ法律ヲ以テ明示シタル公共利益ノ
事業ノ爲メニハ至當ノ償ヲ出シテ國民ノ所有
ヲ割カシムルヲ得ベキナリ

是條ハ前條ト反對ノ觀ヲナスガ如シト雖モ國家ノ爲ニ
ハ實ニ此制定ナカヲザルベカラズ例バ砲臺ヲ築キ鐵道
ヲ敷キ河渠ヲ通シ道路ヲ開ク等ノ爲ニ私有ノ土地ヲ買
入ルニ當リ前條ノミニテハ一事主之ヲ賣ルヲ否ムモノ
アレバ爲ニ其事業ヲ妨グラレ不便甚ナカラザルベキガ
故ニ公共ノ利益ニハ所有ヲ割クノ義務ナカラザルベカ
ラズ然レモ至當ノ償ハ之ヲ出スベキ勿論ナリ夫ノ地券
面ノ代價ヲ以テ買上ルガ如キハ至當ノ償トハ云フヘカ

ラザルナリ

日本國民ハ法律ヲ以テ定メタル陸海軍ノ兵役
義務ヲ負擔スベキナリ

國民徵兵ノ義務ハ貴重ノ義務ナリ憲法ヲ以テ之ヲ制定
シ以テ徵兵令ノ根本大法トナサザルベカラズ我國權ヲ
内外ニ維持スルノ兵制ハ實ニ其組織ヲ茲ニ基スレバナ
リ但シ海軍ノ水夫ハ今日ニ於テハ未ダ徵兵ノ法ニ依ラ
ズト雖モ憲法ニテハ陸海共ニ國民義務ノ兵役ナリト定
メ而シテ時ノ宜キニ從ヒ姑ク志願就役ヲ募集スルモ敢
テ妨グナカルベキナリ

第三章

政府

天皇ハ至尊ナリ法ヲ以テ問ヒ奉ルベキニ非ス
萬機ノ政治ニ關シ國民ニ對シテ大臣ソノ責ニ
任スヘキ事

是レ君民同治ノ政体ヲ建ルニ於テ至重至要ノ憲法ナリ
抑モ我建國ノ体ニ於テ 帝統ハ神種ニテオハスヲ萬代
不易ノ義ナレバ 天皇ノ神聖ニマシマスハ固ヨリ吾曹
ガ明言スルヲ俟タザルナリ外國ニテ君臣ノ義正シカラ
ザルヨリ或ハ有徳ノ人ヲ得テ帝王ノ位ニ即カシメ或ハ
無道ノ君アレバ之ヲ廢スルナド臣子ノ身ニ取リテ有ル
マシキ振舞ヲナシ甚シキハ公ニ弑逆ヲ行ナヒテ憚ル所
ナク却テ之ヲ國民ノ權理ナンド、申スヲナキニ非ズト
雖モ我國体ヨリ論シ我國訓ヨリ觀レバ大逆無道ノ兇惡

ニシテ天地間ニ容ルヘカラザルノ罪科ナリ苟モ此ノ
原ノ中國ノ蒼生タルモノハ何等ノ場合タリモ外國ノ學
ニ妄迷シテ夢ニダモ斯ル無道ノ權理アリナド思ヒ誤リ
我神州ヲシテ父ノク君ヲナキノ國ヲシムルヲ勿レ恐レ
アル巾條ニハ侍レモ若シ天子ノ御言行ニ然ラザル義ノ
アラバ臣子タルモノハ幾重ニモ御爲ヲ謀リテ之ヲ諫諍
シ奉ルベシ之ヲ納レサセ給ハスヲヤアルベキ萬一ニモ
臣子ノ諫諍ヲモ納レサセ給ハズ御不徳ニノミ募リ給ハ
ゞ其時ハ不得已シテ臨機ノ取計ヲナスノ方法ナキニ非
ザルベケレモ之ヲ憲法ニ明示センハ 天威ヲ冒瀆シ奉
ルノ恐アルベシ但シ臨機ノ取計ヲナスノ不得已ニ當リ
テモ至尊ハ法律ニ服従スベキ御身ニアラザレバ常人ノ
如クニ法ヲ以テ御行跡ヲ問ヒ奉ルコトアルヘカラズ三后

皇太子モ亦ソノ如クナルベシ然レモ萬世一系ノ皇統ニ
 テマシマス義ナレバ後世ニ至リテモ代々ノ帝ミナ今日
 ノ如ク堯舜ニ勝レサセ給フ聖主ノミナリト恃ミ奉ラン
 ハ愛東ナシ人皇百廿代ノ御中ニハ無道ニコソオハサッ
 レ君徳ヲ備ヘ給ハザリシ帝モマシクケルヲ以テ之ヲ
 徴スルニ足ルヘキ歟是レ大臣ヲシテ萬機ノ政治ニ關シ
 テ國民ノ責ニ當ラシムルヲ良圖トスル所以ナリ夫レ權
 ノ歸スル所ハ責ノ歸スル所タリ其權アリテ其責ナクハ
 國民ハ何ニ由テ其身ヲ安ジ其自由ヲ享クルヲ得ンヤ若
 シ竅慮ノマニク萬機ヲシロシ召サバ恐ナガラ其責ハ
 帝位ニ歸シ其激迫スルニ際シテハ帝統神種天皇神聖ノ
 大義モ國民コレヲ願ルノ違ナキニ至ランモ計リ難シ吾
 輩ガ夙夜憂懼シテ措クコト能ハザルハ實ニ此事ニ候ナリ

現ニ今日ノ政治ヲ仰視スルニ制度法律ミナ勅命ヲ以テ
 セラル、ガ故ニ大臣參議省卿ハ皆 聖天子ニ對シ奉リ
 テ責任ヲ有スレモ國民ニ對シテハ更ニ其責任ナシ而シ
 テ國民ニ對スル政治ノ責任ハ直ニ 聖天子ニ集リ臣下
 ハ却テ衰龍ノ御袖ヲ楯トシテ責任ノ衝ヲ避クルガ如ク
 ニ見ユルナリ政体ノ然ラシムル所トハ云ヒナガラ是レ
 豈ニ皇統ヲ不窮ニ繼承シ奉ルニ萬全ノ計ナリト云フベ
 ケンヤ是故ニ君民同治ノ政体ヲ建ルニ當リテハ國民ニ
 對シテハ大臣都テ政治ノ責ニ任ズベシト制定シ 聖天
 子ハ人望ノ歸スル者ヲ選ビテ大臣ニ任シ人望ニ背クノ
 大臣ハ之ヲ退ケ一ニ輿論ノ由ル所ニ從テ社稷ノ重臣ヲ
 定メ以テ國民ノ責任ニ當ラシメ給フベシ然ル時ハ國民
 ハ政治ノ得喪ニ責任ノ人アルヲ知リ帝位ハ國民ノ休戚

コ怨府タルコナク萬世一系ノ帝統ハ天壤ト俱ニ不窮ニ
繼承セラレ給ハソコ疑チ客レザル也

行政ノ大權ハ 天皇ノ獨リ掌握シ給フ所ナ
リ 天皇ハ國政ヲ主宰シ陸海ノ兵權ヲ總ベ給
フベシ外ニシテハ開戰ヲ宣ヘ和議ヲ講シ同盟
賀易ノ條約ヲ結ビ内ニシテハ百官有司ヲ叙任
シ法律ヲ實施スル方法順序ヲ定ムルコ皆 勅
慮ニ在ルベシ然レモ御獨斷ヲ以テ現行ノ法律
ヲ廢止シ制定ノ法律ヲ施行セサルコアラセ給
フベカラサル事

行政ノ大權ハ天子ノ權ナリ君民同治ノ目的ハ立法權ヲ

分掌スルニ在リ行政權ヲ分掌スルニアラズ若シ之ヲ分
掌セバ政治其途チニニシ國家ノ安寧ヲ保タザルニ至ル
ヤ必定ナリ是ヲ以テ大臣參議勅奏任官ヨリシテ判任ノ
百僚有司ニ至ルマテ凡ソ國政ヲ行フハ細大トナク皆天
子ノ命シ給フ所ニアルヘシ況ヤ兵馬ノ權チ人臣ニ假シ
給ハザルコ我帝室ノ古訓タルニ於テチヤ文武ノ兩權カ
ク掌握シ給ヒテユン禮樂征伐天子ヨリ出ルノ實チ見ル
モノナリト云フベシ又宣戰講和結盟通交ハ行政ノ大權
ナレハ帝室ノ之チ有シ給フコ非ザレハ不可ナリ且ツ一
タビ立法官ニテ法律ヲ制定セル以上ハ之チ實施スルニ
付キ其ノ方法順序ヲ緊要トスルモノナレハ是等ハ行政
權ノ定ムル所ニ任セテ可ナリ立法權ヲ以テ其細條マテ
ニ干涉セバ常ニ之ヲ牽制シテ事務ノ舉行ヲ妨遮スルノ

弊ヲ招クノ恐アルベシ但シ現行法律ヲ廢止シ制定法律
 ナ施行セザルニ御獨斷ニ任セテハ立法ノ功カナキガ故
 ニ憲法ニ此條ヲ定ムルニ必要ナルベシ畢竟スルニ行政
 ノ大權ハ天皇ノ獨リ掌握シ給フ所ナリト大綱ヲ定メ凡
 ソ文武ノ政ヲ舉テ帝室ニ歸シ奉ルト云ヘバ百事 勅裁
 ニ出ルガ如クニ疑フ人モアルベケレモ前條ニ云ヘル如
 ク政治ニ關シテハ大臣ソノ責ニ任ズルガ故ニ百事内閣
 ノ決議ニ任ゼラレ其決議ハ大過ニ非ザルヨリハ天子モ
 之ヲ否ミ給ハザルノ例ナリト思フベシ内閣ハ天皇陛下
 ノ内閣ニシテ其大臣ハ陛下ニ代リ奉リテ國民ノ責任ニ
 當ルヲ以テ行政ノ大權モ亦陛下ヲ輔弼シテ之ヲ施行ス
 ベシ敢テ叡慮ノマニク從ヒ奉ルノ義ニ非ザルナリト
 思フヘシ之ヲ要スルニ本條ニ天皇ハ内閣ヲシテ云々内

閣ノ決議ニ任セ給フヘシト云ハハ此義判然スヘシト雖
 モ國家ノ根本大法タル國憲ニ一言タリモ帝室ニ虛器ヲ
 擁セシメ奉ルガ如キ文意アリテハ 至尊ニ對シテ大不
 敬ノ至ナレバ故カラニ憚リテ之ヲ言ハザル是レ臣子ノ
 禮ナリ本條ヲ以テ實際ニ於テ内閣責任内閣政權ノ實ヲ
 舉ルヲ得バ則チ可ナリ

立法ノ大權ハ 天皇ノ上院ト相俱ニ合掌シ給
 フ所ナリ之ヲ立法三部ト名ク法律ヲ立案スル
 ノ權ハ三部皆與ニ之ヲ有スルトス但シ租稅及
 ヒ會計ニ關スルノ議案ハ先ツ之ヲ下院ノ議決
 ニ付スヘキ事

是レ君民同治ノ政體ニ於テ主要トスルノ條目ナリ已ニ

國會ヲ興起シ上下兩院ヲ開設スル以上ハ立法ノ大權ハ
 帝室ト國會ト相俱ニ合掌スル所ナルベシ復タ今日ノ如
 ク立法ノ大權ヲシテ行政ノ大權ト共ニ併テ帝室ノ獨リ
 掌握シ給フ所ニ任セ參ラスルニ非ザルナリ聊カニテモ
 立憲政体ノ様ヲ心得ル人々ニハ無キコトナレ立憲ノ名
 ノミヲ聞キテ其實ヲ知ラザル輩ハ立法大權ヲ舉テ之ヲ
 國會ノ掌握ニ委ヌルコトニヤト思ヒ誤リ爾アラソニハ帝
 室ノ立法權ヲ殺リ奉リテ由々シキ大事ニモ到ルベシト
 過慮スルモノ往々之アルガ如シ是レ豈ニ立憲政体ノ主
 眼ナランヤ我王道ヲ尊崇シ帝室ハ已ニ行政權ヲ獨掌シ
 給フガ上ニ立法權ヲモ合掌シ給フベシト云フニアルノ
 ミ之ヲ簡説スレバ帝室ノ行政權ヲ獨掌シ給ハンコトハ我
 國体ナレバ國民ニ取リテ固ヨリ仔細ノ候ハズ立法ノ事

ダケハ國民ニモ謀ラセ給ヒテ君民相共ニ協同シテ制定
 スルコト計ハセ給ヘト願ヒ奉ルト云フニ止ルノミ皇極
 チ建テ民極ヲ作ス所以ノモノハ實ニ是ニ在ルナリ斯ク
 立法權ハ三部合掌ニ在ルヲ以テ凡ソ文武ノ法律ヲ制定
 セント欲スルニ當リテハ其議案ハ獨リ帝室ヨリ下附セ
 ラルベシト限リテハ上下兩院ヲシテ三部同權ノ實ヲ失
 ハシムルノ恐アルニ付キ本文ノ如ク立案權ハ三部皆與
 ニ之ヲ有スルコト定メ上院ニテ草スルノ議案アリ下院
 ニテ草スルノ議案モアリテ然ルベシト思ハル但シ租稅
 ノ徵額ヲ増減シ或ハ新稅ヲ起ス等ノコトヲ初メトシ常例
 ノ歲入出豫算及ビ例外ノ出入若クハ紙幣發行國債募集
 ノ如キ凡ソ會計上ニ關係スル議案ハ其立法案ハ三部ノ
 孰ニ出ルヲ問ハズ都テ第一ニ之ヲ下院ノ議ニ付スベキ

「緊要ナリ蓋シ百政ノ中ニ就テ尤モ國民ノ休戚ニ直接
スルハ財政ヨリ切ナルハ莫キヲ以テ國民ノ直選ニ出ル
ノ下院ヲ以テ財政ヲ議スルノ樞機トナシ財政上ノ議案
ハ下院ノ議決ヲ先ニシテ上院ヲ後ニスルヲト定ムベシ
敢テ他部ノ議決ヲシテ下院ノ可否ヲ左右セシムルヲア
ルベカラザル也

凡ソ法律ハ上下兩院ニ於テ各々自由ニ之ヲ審
議シ各々其衆議ヲ以テ可否ヲ決スヘキ事

自由審議ハ議院ノ爲ニ欠クヘカラザルノ自由ナリ苟モ
其言論ノ國安ヲ妨害シ兇惡ヲ教唆シ若クハ誹議譏謗ニ
涉ラザル以上ハ其議スル所ニ關係シテ如何ナル發論ヲ
ナスモ決シテ帝室權若クハ行政權ヲ以テ之ヲ妨害シ其

審議ヲ盡スト能ハザルノ憾アラシムヘカラズ例バ往時
英國ニ於テ此ノ議案ハ實ニ叙慮ニ出ルノ議案ナレバ之
ニ反對スルハ叙慮ニ背キ奉ルノ恐アリ其罪ハ違勅ニ同
シカルヘシナド、云ヒテ議院ヲ恐怖セシメ原案ヲ維持
シタルガ如キハ即チ君威ヲ假リテ臣下ノ口ヲ噤セルノ
實アリ是レ英國議院ニ於テ帝室ト云フヲ差止メテ以
テ審議ノ自由ヲ保護スル所以ナリト知ラル又議院ニ於
テ議員某ハ云々ノ論議ヲナシテ痛ク行政官ノ不是ヲ攻
撃シタリト聽キ之ヲ安カラヌヲニ思ヒ陰ニ他ニ罪科ヲ
求メテ其議員ヲ中テ攻撃ノ怨ニ報ヒタルヲ往時ハ歐
洲ニモ其弊アリシト云ヘリ是レ尤モアルマシキ事凡ソ
リ故ニ憲法ノ明文ヲ以テ議院ノ爲ニ自由審議ノ權理ヲ
鞏固ナラシメザルヘカラズ又議院ノ可否決ハ其衆ニ依

ルコ勿論ナリ而シテ其衆議ヲ取ルニモ過半数ニ由リ或ハ比較多数ニ由ルノ別アリト雖モ是等ハ更ニ議院條目ノ詮議ニ於テ定ムベキコトナレバ茲ニ論定セズ但シ議決法ヲモ憲法ニ明示スルチ是トスルナリト云ハゞ吾曹モ亦固ヨリ之ヲ不可ナリトセザルベシ

法律ヲ布告スルノ大權ハ 天皇ノ獨リ掌握シ給フ所タルベキ事

是レ我國體ニ於テ尤モ肯綮ノ條ナリトス凡ソ法律ハ其立案ノ孰ヨリスルチ問ハズ兩院ニテ之ヲ議決シテ天皇陛下ニ奉リ御硃批准ヲ經テ勅諭若クハ太政大臣ノ名ヲ以テ之ヲ天下ニ布告セラル、モノトス批准ヲ經ザレバ決之ヲ布告シ之ヲ實施スルチ得ザルモノナリ去

レバ帝室即チ行政官ヨリ發セラル、ノ議案モ上下兩院ニ於テハ之ヲ修正スルノ權アルガ如ク議院ノ議決モ帝室ニ於テ之ヲ批准シ給ハザルノ大權アリ吾曹ガ所謂立法ノ大權ヲ合掌スルトハ是コレヲ謂フナリ且ツヤ帝室ニハ不認可權トテ凡ソ議院ノ議決ヲ然ルベカラズト思シ給フキハ之ヲ認可セズト達シテ其議決ヲ廢棄シ更ニ議院ニ再議セシメ給フコトアリ又解散權トテ議院ノ議決ヲ不適當ナリト思シ給フコトキハ何時ニテモ議院ヲ解散シ給フノ大權アレハ立法權ヲ君民合掌ト云フル帝室權ノ御稜威ハ中々ニ盛大ナルモノニゾアル然レモ此ノ御稜威ノ盛大ナルニ應ジテ内閣ノ責任モ亦重クレバ其ノ不認可權ハ容易ク行ハルベカラズ何トナレバ一タビ不認可ト達シテ再議セシムル以上ハ其再議ナホ前議ノ如

少ナルキハ内閣ハ國論ニ背馳スルノ實アルヲ以テ舉テ其職ヲ退カザルベカラズ又々解散ヲ命ジテ其新選議員ナホ舊員其人ニ同ジキカ若クハ其主義ヲ同クスルノ政黨ナルキハ天皇ハ其國論ニ背馳スルノ内閣ヲ退ケテ新ニ國論ニ主義ヲ同クスルノ内閣ヲ置キ給ハザルベカラザルガ故ナリ到底不認可權解散ハ國論ヲ一變セシムル乎但シハ内閣ヲ更迭スル乎一刀兩斷ノ場合ニ行ヒ兵戈ヲ動カズシテ平和ノ政變ヲ致スノ爲ニスルモノナレバ常例ノ事ニアラズト思惟セラルベシ前條ニ國民ニ對シ大臣ソノ責ニ任スベシト云ヒタルハ即チ此爲ナリ

第四章

上院

上院ハ立法官ノ一要部ナリ其議會ハ皇族及ビ華族二十名國老四十名ヲ以テ組織スベキ事

一局議院ヲ是トスルノ論者ヨリ觀レバ上下兩院ヲ置ク一固ヨリ無用ノ如ニ思ハルベシト雖モ吾曹ハ原來二局議院ヲ主張スルヲ以テ上院ノ下院ト相與ニ併立セシムヲ望ム者ナリ世間或ハ一局議院ヲ見テ共和政治主意ト誤リ痛ク之ヲ攻撃スル者アレモ是妄想ノミ君民同治ノ政体ハ二局議院ニ限リ共和政治ハ一局議院ニ限ルト定マル者ニハ非ズ之ヲ一ニスルモ之ヲ二ニスルモ皆憲法制定ノ國議ニ於テ當時ノ國情ヲ察シ其宜ニ應ズルモノヲ取ルノミ而シテ現時我國情ニ於テ一局議院ヲシメンヨリハ寧ロ二局議院ノ妥當ナルニ若カズト思惟スルヲ

以テ吾曹ハ初ヨリ上下兩院ヲ開設スベシト冀望スルナ
 リ敢テ一局議院ヲ共和政治主義ナリト妄想シテ之ヲ排
 斥スルニアラザルナリ但シ此ノ一局二局ノ得失利害ハ
 從來政治家ノ討論スル所ニシテ今日マデ一定セザル程ノ
 問題ナレバ之ヲ討議スルコト極メテ緊要ナリト雖モ爲ニ
 本議ノ氣脈ヲ遲緩セシムルニ至ランコト恐レテ之ヲ他
 日ニ譲リ始ク本議ニ於テハ我國情ニ於テハ上下兩院ヲ
 開設スルヲ是ナリトスルノ意見ナリト云フヲ以テ十分
 ナリトスベシレ已ニ立法議會ヲ兩院ニ分ツト定ムル以
 上ハ如何ナル種族ヲ以テ上院ヲ組織スル乎此義最モ至
 要ノ問題ナリ英國上院ノ如ク貴族院トナサンカ將タ米
 國上院ノ如ク國老院トナサン乎コノ二法ノ外ハナカル
 ベシ而シテ吾曹ノ意見ヲ以テスレバ此二法ヲ折衷合一

スルゾ我國情ニ適應スヘキナリ夫ノ英國ノ貴族院ハ封
 建ノ勢ニ成ルモノニシテ英民ノ志ヨアラザルナリ我國
 ナシテ封建藩制ノ昔日タラシメバ或ハ貴族院ヲ以テ上
 院トシ帝室ノ藩屏タラシムルヲ要スルノ場合モアルベ
 ケレモ今日ノ華族ニテハ復タ帝室ノ藩屏タルベキ勢力
 モナク且ツ純義至誠ノ日本國民ニ向テハ帝室モ敢テ華
 族ノ藩屏ヲ要シ給フニ及バズ然バ則チ今日我國ノ華族
 ハ帝室ノ威嚴ヲ粧飾シ封建ノ籛羊ヲ遺存スルノ族タル
 ニ過ギザレバ太ダ世ニ用ナキノ長物タルガ如シ然レモ
 禮樂制度ヲ定メテ帝室ノ威嚴ヲ貴クスルハ我國體ニ於
 テ固ヨリ其事ナカラザルベカラズ而シテ封建ノ籛羊モ
 其世道人心ニ害アラザル以上ハ之ヲ遺存スルモ亦決シ
 テ國家ニ妨ナカルベシ況ヤ夫ノ華族ハ皆攝籛清華勳府

諸侯ノ名門ニシテ我國民ノ曾テ尊崇セシ所ナレバ其族
 ナ貴クシテ庶民ノ上ニ置キ以テ天津日嗣ノ衛星タラシ
 ムルハ國民ノ其ニ満足スル所タルヲ疑ハサルニ於テチ
 ヤ是レ吾曹ガ華族ノミチノ上院ノ一部タラシメント欲
 スル所以ナリ然レハ華族チノ皇族ト與ニ上院ヲ占據セ
 シムルキハ他日或ハ上院ハ君權ノ爪牙タルノ慮ナキニ
 非ザレバ之ヲ牽制スルニ國老ヲ以テシ皇族華族國老ト
 三者相待テ上院ヲ組織セシムベシ」
 諸君テ皇族ニ其御人
 員ヲ限ラシテ帝統ヲ冒瀆スルノ恐アレバ皇族ハ御年長
 ニシテ文武ニ就職シ給ハサル限ハ何時ニテモ上院ノ議
 席ヲ占メ給フノ御特例アルベシ華族ハ其族中ヨリ法律
 ノ資格ヲ備ヘタル者ヲ選舉シ華族ノ代議士トシテ上
 院ニ出頭セシムベシ四百六十七人ノ華族中ヨリ廿名ノ

代議士ヲ出頭セシムルヲ得ルハ特例ナリト云ハサル
 ベカラズ將タ國老ハ三府三十七縣ノ議會ヨリ選舉セラ
 ル、ノ代議士タルヲ以テ國民ヨリ見レバ複選ノ代議士
 府縣會ヨリ見レバ其議會ヲ表スルノ代議士タルニ由リ
 之ヲ國老ト稱センコト實ニ其當ヲ得ルモノナルベシ且ツ
 ヤ其人員四十名タルキハ設ヒ皇族ノ數ヲ限リ參ラセズ
 凡年長不就職ノ親王宮方ハ廿名ヲ越シ給フコトハアラセ
 マシケレバ華族ト結合セラル、凡爲ニ上院ノ多數ヲ制
 セラル、ノ慮ナカルベキナリ然レハ此ノ上院組織法
 ハ不得已ノ考案ニ出テ、貴族院國老院ノ二法ヲ折衷シ
 タルモノナレバ吾曹ト雖凡未ダ敢テ自カラ之ヲ完全周
 備ノ組織ナリトハ公言スルコト能ハズ是ノ如クナラハ可
 ナラント云フニ過ギザルノミ幸ニ大方ノ君子之ニ勝ル

ノ名案ヲ異日ニ開示アラバ吾輩必ラズ其教ヲ乞ハン
 上院ハ毎歳必ラス勅命ヲ以テ下院ト同時ニ
 開キ給フベシ下院ヲ開カレサル間ハ上院ノ議
 決ハ國民ニ對シテ無効タルベシ但シ糺彈裁判
 ノ爲ニ上院ヲ開クハ其法廷ノ資格タルヲ以テ
 此限ニアラサルベキ事

議員ヲ集散シ議院ヲ開閉スル大權ハ固ヨリ天皇ノ掌握
 シ給フ所ナレバ之ヲ憲法ニ明示シーハ私集ノ國會ニア
 ラザルヲ公知セシメ一ハ毎歳必ラズ國會ヲ開キ給フ
 一ヲ公信セシメラルベシ然レモ其開院ハ上下兩院同
 同時タルベク若シ萬一ニモ上院ヲ親シミ下院ヲ疎セラ
 ル、カ或ハ内閣政略ノ權宜ニ由リ若クハ下院解散ノ場

合ニ於テ下院ヲ開カザルニ先ヅ上院ヲ開キテ法律ヲ制
 定セラル、一モアリテハ國民參政ノ權理ヲ失フノ恐ア
 レバ下院ヲ開カレザル間ハ上院ノ議決ハ國民ニ對シテ
 無効ナリト定ムル極テ緊要ナリトス但シ華族ニ罪ア
 レバ上院ニ於テノミ裁判セラル、ノ特例ヲ與へ又内閣
 ノ失職ハ上院ニ於テ之ヲ糺彈スルトト定ムレバ上院ハ
 時ニ臨ミテ其法廷ヲ開クコトアリ其時ニハ是レ上院ハ裁
 判所ノ資格ヲ以テ開キ議院ノ資格ヲ以テ開クモノニ非
 ザルガ故ニ本文ノ限ニアラザルベキナリ

皇族滿廿一歳以上ノ男子ニシテ文武ノ常職ヲ
 帶ビサセラレサル方々ハ親カラ上院ノ議席ヲ
 占メ給フノ特權アリ其數ヲ限リ參ラセサルハ

キ事

貴族中ノ貴ハ皇族ヨリ貴キハ無シ上院ニシテ既ニ貴族院ノ資格ヲ備フル以上ハ人間ノ種ニアラズ皇族ノ方々ハ固ヨリ其議ニ參與シ給フノ特權ナカラザルベカラズ但シ卅一歳未滿ノ少年ハ皇族ナレバトテ重大ノ國議ニ加ハリ給ハンハ如何ナレバ其年齡ヲ定ムルハ決シテ不當ニアラズ又文武ノ常職ヲ帶ビ給フハ皇族ハ上院ノ國議ニ參與シ給フテ差支ナカルベシ外國ニモ其例ナキニ非ズト云フ者モアルベケレハ文武ノ官職ニ就キテ上下兩院ノ議席ヲ占ムルハ内閣大臣ニ限ルノ特例ナリト定ムルキハ皇族ニテオハスハ内閣大臣ニアラザル限リハ御遠慮アリテ然ルベキ歟將タ其數ヲ限ラザルハ前條ニ述ベタルガ如ク 帝室ヲ尊崇スルノ誠意ニ出ルモノナ

レバ此ノ義ニ付テハ我國體ニ於テ之ヲ非議スルノ說ハ起ルマシト信ズル也

華族 滿廿一歳以上ノ男子ハ其族中ヨリ廿名ノ代議士ヲ選舉シ華族議員トシテ上院ニ出頭セシムルノ特權アリ被選人ハ滿廿五歳以上ニシテ文武ノ常職ヲ帶ビサルモノニ限ルベシ此華族議員ノ在職ハ四年間ト定メ二年毎ニ其半數ヲ改選セシムベキ事

前條ニモ云ヘル如ク現時四百六十七家ノ華族中ヨリ卅名ノ代議士ヲ選舉セシムルハ貴族ノ特權ナリト云ハザルベカラズ其選舉人ハ文武ノ官職ニアルト否トテ問ハズシテ可ナレハ被選人ハ非職華族ニ限ルベシ此限ハ皇

族猶且然リ況ヤ華族ニ於テチヤ其年齡モ皇族滿廿一歲
華族滿廿五歲以上ト定メテ然ルベシ但シ貴號ヲ剝奪セ
ラレタルモノハ云フモ更ナリ公權ヲ剝奪セラレ停止セ
ラレタルモノハ華族タリテ選舉權ヲ有スルコトアルベカ
ラズ在職年限四ケ年ハ短キガ如シト雖モ再選ヲ許スル
ハ敢テ妨ナカルベシト思ハル

國老 滿三十歲以上ノ男子ニシテ其府縣内ニ
本籍ヲ定メ滿二年以上其地ニ居住シ地租ヲ拂
ヒ文武ノ常職ヲ帶ビス應選ノ資格ヲ備フルモ
ノタルベシ府縣會ハ其會議ニ於テ其議員中ヨ
リ若クハ議員外ヨリ各々國老一名ヲ選舉シ其
府縣ノ國老トシテ上院ニ出頭セシムベシ其在

職ハ四年間ト定メ二年毎ニ其半數ヲ改選セシ
ムベキ事

應選ノ資格ハ本文ノ外ニナホ制定ヲ要スル所アルベシ
年齡ハ滿三十歲以上ニアラザレバ國老タルベカラズト
スルコト妥當ナルベシ府縣會ヲ上院ニ表スルノ國老ナレ
バ府縣内ニ本籍ヲ定メ且ツ滿二年以上其地ニ居住スル
モノニ限ルハ其府縣ニ重ヲ加フルノ意ナリ地租ヲ拂フ
モノニ限ルハ吾輩ハ未ダ普通選舉ヲ我國情ニ適應セズ
今日ニ於テハ制限選舉ヲ不得已ト思惟スルニ由リ之ヲ
地租ニ求ムルナリ然レモ地租十圓乃至五圓以上ナドハ
制限センハ頗ル國民參政ノ權理ヲ妨害スルノ恐アレバ
苟モ地租ヲ拂フ以上ハ復タ其租額ノ幾許タルヲ問ハズ

シテ可ナリトス正理ヨリ論シナバ地租ニ求メンヨリハ
凡ソ直接ノ國稅ヲ拂フモノト定メンユツ至當ナルベク
レモ夫ニテハ資格ノ調査ニ煩ハシキヲ以テ寧ロ地租ノ
簡ニシテ又其体ヲ失ハザルニ若カズト思惟シ地租ヲ資
格トハ定ムルナリ在職年限ハ前條ニ同シ

上院ハ皇室ニ對スル重罪國事ニ關スル重罪ヲ
裁判シ皇族華族ノ犯罪ヲ裁判シ大臣失職ノ罪
ヲ裁判スルノ高等法院タルベキ事

高等法院ハ已ニ治罪法ニ於テ皇室ニ對スル重罪、國事
ニ關スル重罪、皇族ノ犯シタル重罪及禁錮ノ刑ニ該ル
ベキ輕罪、勅任官ノ犯シタル重罪ヲ裁判スルノ法院ナ
リト制定セラレタレバ之ヲ要スルノ場合ニ臨メバ司法

卿ノ奏請ニ因リ上裁ヲ以テ之ヲ開カレザルベカラズ然
レモ上院ヲ設ル以上ハ直ニ上院ヲ以テ高等法院トナシ
此法權ヲ舉テ全ク上院ニ附セラル、ニ若カズ華族ヲ貴
族ナリトスルモ其犯罪ハ皇族ニ同シク高等法院タル
上院ノ裁判ヲ受ルノ特例ヲ與フルモ亦不可ナカルベシ
勅任官ノ犯シタル重罪ハ敢テ上院ニ於テ裁判スル迄ニ
ハ及ブマシト思ハルレモ治罪法ノ制定ニ從ヒ同シク之
ヲ上院ニ移サル、モ吾曹ハ固ヨリ之ヲ不可ナリトハ云
ハザルベシ但シ大臣失職ノ罪ハ議院ニ糾彈セラレ上院
ノ裁判ヲ受ルコト定メザレバ政治ニ關シ國民ニ對シテ
ハ大臣其責ニ任ズルノ實ナキヲ以テ此義ハ必ラズ之ヲ
憲法ヲ以テ其責任ヲ明示セザルベカラザル也且ツ此ノ
憲法中ニ大臣ト稱スルハ大臣參議省卿長官等都テ天皇

陛下ノ内閣トナリテ行政ノ長官タル人々ヲ指スノ稱ナリ其官職ハ官省ノ組織ニ由リテ時ニ異同アリト心得テ妨ナカルベシ

華族ニ封列セララル、ハ天皇ノ大權ニ在リテ其數ヲ限ラサルナリ華族ニ等級ヲ立テ或ハ世襲ニ封シ或ハ終身ニ封セララル、都テ叡慮ニ任セ奉ルヘキ事

是レ天皇陛下ノ大權ナリ帝室ニ忠良アリ國家ニ勳功アルノ名士功臣ヲ登庸シテ世襲若クハ終身ノ華族ニ取立テ社會ノ榮譽ヲ賜ハルコトハ實ニ君主ノ盛徳ニアレバ固ヨリ叡慮ニ任セ奉ラザルベカラズ之ヲ論ヒ申サンハ臣子ノ分ニ於テアルマシキコトナリ故ニ華族ノ數ヲ限ラザ

ルコト至當ナルヘシ但シ華族ニ御取立アルモ國庫ヨリシテ之ニ祿ヲ賜ヒ若クハ賞ヲ給セララル、ハ兩院ノ可決ヲ經ルニ非ザレバ勅命ノマニク實行セララル、コト能ハザル勿論ノ義タルヘシ斯ノ如クシテ初メテ皇極ニ於テハ御稜威ヲ増シ奉リ民極ニ於テハ國民ノ權理ヲ全クスルコトナリト云フヘキ歟

第五章

下院

下院ハ立法官ノ一要部ナリ其議會ハ日本國民ヨリ直ニ選舉セラレタル代議士百四十名ヲ以テ組織スベキ事

上下兩院相待テ立法官タルヲ以テ其孰ニ優劣輕重アル

べき等ハナクレ思フニ上院ノ皇族ハ公選ノ方々ニハ
 マシマサズ華族議員ハ選舉ノ体ハアレハ實ニ其種族ノ
 代議士タルニ止マレバ全般國民ヲ表スルモノニアラズ
 國老ハ國民ヨリ出ルト云ヘハ是モ府縣會ニ選舉セラレ
 、モノナレバ國民ヨリ視レバ複選ニシテ直選ノ代議士
 ニアラザルナリ然バ則チ上院ハ全國一般ノ人民ヨリス
 レバ未ダ直接ニ其代議士ヲ表スルモノニ非ズト云フモ
 亦可ナリ而シテ獨リ之ヲ直接ニ表スルモノハ即チ下院
 ニアラズヤ是レ下院ノ議權ハ尤モ國民ノ爲ニ參政ノ權
 理ヲ表スルノ公權ニシテ其議員ハ直選舉ヲ緊要ナリト
 スル所以ナリ斯ノ如キ貴重ノ下院ナレバ其議員ヲ選舉
 スルニ當リ員數ノ割合ハ人口ヲ以テ目安ノ基本トシ例
 ハ人口十万人ニ付一人乃至十五万人ニ付一人ト云フガ

如クニ定ムルヲ至當ナリトスヘシ已ニ上院ハ七十八人ヨ
 リ八十八人迄ノ間ノ議員ナルニ之ニ對シテ百四十人ノ下
 院ハ人數寡少ニ似タレハ創立ノ初ニ當リ好議決ノ結果
 ヲ得ンニハ姑ク今日ニ於テハ人口凡廿五万人ニ付議員
 一人ヲ選舉スルノ割合ニテ百四十八ヲ以テ足レリトス
 議院ノ制度モ整頓シタル上ニテ憲法改正ノ他日ニ於テ
 其數ヲ増加シテ可ナルヘシト思惟スルナリ但シ此數ヨ
 リ降りテハ吾曹モ其不足ヲ訴フベケレハ若シ初ヨリ此
 數ヨリ多カラシムルモ實際ニ差支ナキ確乎タル見据ア
 ラバ本文ノ數ヲ増加スルニ於テ固ヨリ異見ヲ有セサル
 へキナリ

下院ノ議員タルモノハ滿廿五歲以上ノ男子ニ

シテ地租ヲ納メ文武ノ常職ヲ帶ビス應選ノ資格ヲ備フルモノタルヘシ但シ其半數ハ必ス選舉府縣内ニ本籍ヲ定メ滿二年以上其地ニ居住スルモノタルベシ其在職ハ四ケ年間ト定メ二年毎ニ其半數ヲ改選セシムベキ事

法律ヲ以テ應選資格ヲ制定スルノ要ハ已ニ前章ニ開陳セルガ如シ其年齢ヲ廿五歳以上ト定メタルハ國老三十歳以上ニ準シテ五歳ノ寛ヲ設ケタルナリ此議員ヲ選舉スルニ當テハ苟モ應選ノ資格ヲ備フルノ人タラバ他府縣ノ人ヲ選舉スル例バ東京ニテ高知ノ人ヲ選舉シ鹿兒島ニテ青森ノ人ヲ選舉スルコト固ヨリ選舉人ノ自由タルベシト雖モ全員盡ク他府縣ノ人タラバ其地方ノ風俗習

例人情ニ疎ク爲ニ便否休戚ヲ過ルノ患ナシトセズ故ニ其半數ハ必ズ其府縣内ノ人ヲ選舉セシムルニ若カザルナリ其方法タル例バ東京府ノ人口九十五万餘ホテ四人ノ議員ヲ選舉スルニ當リテハ二人ハ全國ニ通選シ二人ハ府民ニ限選スベシ大分縣ノ人口七十二万餘ニテ三人ヲ選舉スルキハ一人ハ通選トシ二人ハ限選トスルガ如シ然ル時ハ適正ノ代議士ヲ選舉スルニモ妨ナク又代議士ヲシテ其地方ト隔絶セシムルノ患モナカルベシト思ハルハナリ如是ノ制定ハ外國ニテモ之ヲ實行セシムルノ國アリト云ヘリ將タ在職年限ハ已ニ前章ニ於テ意見ヲ開陳セリ

下院議員ノ選舉人ハ滿廿一歳ノ男子ニシテ其

府縣内ニ居住シテ地租ヲ納メ其他選舉ノ資格
ヲ備フルモノニ限ルベキ事

選舉資格ハ將ニ斯ノ如クニシテ可ナルベシ廿一歳以上
ニテ現ニ其府縣ニ一家ヲ構ヘテ地租ヲ拂フモノニテア
ラバ敢テ其本籍ト寄留トヲ問フニ及バズ又滿二年以上
ノ居住ヲ待タズシテ可ナルベキナリ若シ之ヲ制限スル
ニ嚴ナルキハ地租ヲ納ムル廿一歳ノ男子ヲシテ其ノ寄
留移轉ノ爲ニ貴重ノ權理ヲ失ハシムルノ恐アルベシ且
シ被選人ユソ文武ノ常職アルモノヲ取ラザレ選舉人ニ
至リテハ其官職ノ有無ヲ問テ選權ヲ與奪センコト尤モ然
ルベカラザルナリ但シ選舉ノ時ニ當リ候補ノ制ヲ設ク
ルコト及ビ選舉會ヲ開キ若クハ推薦演說ヲナス等ノ如キ

ハ管ニ行政權ヲ以テ其自由ヲ妨クベカラザルノミナラ
ズ充分ノ助カヲ加ルコト固ヨリ當然ナルベシ
下院ハ毎歳必ラス勅命ヲ以テ上院ト共ニ同時
ニ開キ給フベシ 天皇ハ上下兩院ノ議決ヲ不
認可シ其議會ヲ中止シ紛議アルニ當テハ其議
員ニ解散ヲ命シ給フノ大權アリトス然レモ此
場合ニ當リテハ必ス直ニ之ヲ再議セシメ必ラ
ス三月間ニ之ヲ再開シ必ラス三月間ニ新議員
ヲシテ議會ヲ組織セシメ給フベキ事

勅命ヲ以テ下院ヲ上院ト同時ニ開キ給フベキハ前章ニ
開陳セルガ如シ議院ノ通常閉場モ亦同様タルコト言テ俟
タズシテ明ナリトス不認可中止解散ハ天皇陛下ノ大權

ナレバ必ラズ此權ヲ掌握シ給ハザルベカラズト雖モ此
 事ヤ平和ノ政變タルヲ以テ萬不得止ノ時ニ非ザレバ容
 易ク行ハセラルベキコトニ非ズ若シ議決ヲ認可スベカラ
 ズトシ給フ時ハ必ラズ直ニ再議ニ附シ給フベク若シ中
 止ヲ命ジ給フキハ其日ヨリ三月間ニ必ラス再ビ議院ヲ
 開キ給フヘク若シ解散ヲ命ジ給フキハ直ニ議員ヲ改選
 セシメ同シク三月間ニ新議院ヲ開キ給フヘシ如何ナル
 場合マリモ之ヲ中止シ之ヲ解散セシメタル儘ニテ議院
 ナ閉ガシ給フコトアラセラルヘカラズ是レ尤モ國憲ニ於
 テ至重至要トスルノ綱領ナリ之ヲ要スルニ議院ヲ開閉
 シ中止シ解散スルノ大權ハ陛下ノ掌握シ給フ所ナレモ
 一國ノ法律制度會計ハ必ラズ兩院ノ議決ヲ經ルニ非ガ
 レバ之ヲ實施スヘカラザルノ制ヲ立ルハ實ニ此條ニ存

スル者ナリ

下院ノ議長ハ議員ノ中ヨリ之ヲ公選スベキ事

下院ノ議長ハ公選ニ仍ルベキコト固ヨリ權理ニ關係アル
 要所ナリ國民ヨリ直選ノ代議士ヲ以テ組織スルノ下院
 ナ整理セシムルニ特選或ハ官選ノ議長ヲ以テスルコト太
 ダ然ルベカラザルガ故ナリ因ニ云ク吾曹ガ前章ニ於テ
 上院ノ議長ヲ公選ト考按セザリシハ公選ヲ善トセザル
 コアラズ或ハ官選ヲ取ラザルベカラザルノ場合アルベ
 キヲ慮リタルヲ以テ吾曹ハ上院議長ノ制定ニ關シテハ
 姑ラク所見ヲ開陳セズシテ先ヅ世論ヲ聽カント欲スル
 ナリ若シ上院モ公選議長コソ善シカレト云ハゞ是上モ
 無キコトナリ若シ上院議長ハ勅命ヲ以テ特選セラルベシ
 ト云ハゞ夫ニテモ可ナリ然レモ其時ニハ特選議長ハ決

議ニ加ハルヲ得ズト制定セザルベカラズ議院ノ決議
法モシ過半数ヲ取ルコトニ定マル時ハ兩院ニ正半数ニ
當リテハ議長ノ決ニ仍ルヲ例トスルモノナレバ下院ノ
公選議長ニハ此ノ決權アルモ上院ノ特選議長ニハ決シ
テ此權ヲ與フベカラズト心得ベシ

兩院ノ議決ヲ經テ天皇ノ御硃批准ヲ得ルニ非
ザレバ如何ナル細瑣ノ租稅タリモ之ヲ國民ニ
賦課スベカラサル事

此件最モ議院ノ權理ヲ鞏固ナラシムルノ事タリ而シテ
下院ノ權威ハ實ニ租稅會計ノ點ニアルモノナリ前條ニ
モ云ヘル如ク凡ソ租稅會計ニ關スル議案ハ先ツ下院ノ
議決ヲ取リテ後ニ上院ニ及ブヘケレバ苟モ兩院ノ可ト

セザル所タラバ假ヒ帝室ノ御稜威タリモ一錢一厘ノ稅
ヲモ之ヲ國民ニ賦課シ給フコアルベカラズ將々租稅賦
課法ノ原則ニ據レバ家稅地租ノ如キハ毎歲コレヲ議決
シ他ノ物品稅若クハ營業稅ハ數年ニ通シテ議決スルヲ
可ナリトスト云ヘモ是原則ハ姑ラク我邦ニハ實施セラ
レ難カルベシ就中地租ノ如キハ一定數年ヲ以テ却テ納
稅者ノ心ヲ安ンゼシムルニ似タルガ故ニ是等ハ憲法ノ
條目ヲ定ムルノ時ニ於テ斟酌アルヘキコト歟又每歲支出
スヘキ陸海軍ノ武備定額及ヒ諸官省ノ定額豫算ヲ議決
スルコトハ專ラ下院ノ重權ニアレバ其豫算議決ハ自カラ
尋常ノ法律ヲ制定スルニ異ナル所ナガラザルヲ得ズサ
レバ豫算議決方法ヲ豫シメ議院ノ爲ニ制定スルコト極テ
緊要ナルベシト思ハルナリ

開議中及び會議ノ前後一ヶ月ノ間ハ議員ヲ抑
制シ勾引シ若シクハ之ヲ勾留スルヲアルベカ
ラス又開議中ハ現行犯罪ノ外ハ會議ノ許諾ヲ
得ルニ非サレバ議員ヲ逮捕シ糺彈スルヲ得ベ
カラサル事

是レ議院ヲ貴重シ議員ヲ特遇スルニ欠クベカラザルノ
要領ナリ若シ此法ヲ設ケテ議員ヲ保護セザルキハ法廷
若クハ檢察官ニ於テ或ハ遠足留ヲ命シ或ハ他出留ヲ命
シ或ハ召喚ニ應ゼザルヲ以テ勾引勾留ヲ行ナヒ議院ニ
向テハ其發言者ヲ奪ヒ議員ニ向テハ其代議ノ職務ヲ悉
サシメザルノ恐アリ太ダ掛念スベキナリ故ニ憲法ニ
於テ開議中及び其前後一月間ハ議員ニ對シテ抑制勾引

勾留等ヲ行フベカラズト制定スルキハ議員ハ招集ノ勅
命ヲ奉シテ議院ニ參着シ其間ハ詞廷法廷若クハ行政官
檢察官ノ爲ニ尋常ノ檢束ヲ被ラザルヲ得ベシ之ヲ簡説
スレバ其間ハ官吏モ其人ニ向テ右ノ諸權ヲ行フヲ見
合セテ以テ其期限ノ畢ルヲ俟ツモノナリ其犯罪ノ如キ
モ現行犯ノ如キハ格別ナリ非現行犯ノ如キハ先ツ議院
ニ紹介シ其承諾ヲ得タル後ニ其犯罪者ヲ逮捕シ糺彈ス
ルヲ得セシムベシ若シ議院ニテ承諾セザル時ハ逮捕糺
彈ヲ行フベカラズトス此制ヤ或ハ議員ニ私スルノ制ナ
リト云フノ疑モアルベケレテ敢テ議員ヲ曲庇スルニ非
ズ議員ヲシテ其職務ヲ執行セシムル爲ニスルモノナレ
バ取モ直サズ國民ノ權理ヲ貴重スルノ意ニ出ルモノナ
リ論者此意ヲ誤ルヲ勿レ

兩院ニ呈スルノ請願建議ハ必ラス書面ヲ以テ
 スベシ自カラ議院ニ口陳スルヲ許サズルベキ
 事

凡ソ國民ヨリ呈スルノ請願若クハ建議ハ其集會ノ名ヲ
 以テスルモ或ハ一個人ノ名ヲ以テスルモ之ヲ受理スベ
 キモノナリ殊ニ議院ノ如キハ實ニ請願哀訴ヲ聽キ建議
 建策ヲ聞クベキノ要地ナレバ之ヲ採用スルヤ否ハ衆議
 ニ任セ先ヅ之ヲ受理スルヲ至當ナリ之ヲ受理スルノ上
 ニ於テ或ハ之ヲ審按シテ其取ルベキモノハ之ヲ取リテ
 議院ノ問題トナスニ至ルマデニハ順序ヲ踐ムベキヲナ
 レバ其順序方法ハ實ニ議院ノ定ムル所ノ條目ニ仍ルベ
 シ然レモ其請願建議ハ必ズ書面ヲ以テシ其議院ニ口陳

スルヲ許サズルハ煩ヲ防ギ撥ヲ制スルガ爲ナリ尤モ議
 院ノ望ニ仍リ其請願者建議者ヲ招キテ情實主趣ヲ詳悉
 セシムルハ妨ナシト雖モ議場ニ於テセシムルハ萬々
 コレアルベカラズ

附云上下兩院ノ議事ハ公ニ傍聽ヲ許ス米國ノ如クナル
 ベキカ將タ傍聽ヲ許サズル英國ノ如クナルベキカ憲法
 ナ國約スルノ日ニ於テ之ヲ一定スルヲ緊要ナリ吾曹ノ
 考案ニ據レバ議事ハ傍聽ヲ許スト雖モ内閣ノ要ニ仍リ
 若クハ議員五名以上ノ要ニ仍リテハ議長ハ其傍聽ヲ禁
 ズベキト制定スルヲ妥當ナリトセン歟姑ク闕テ以テ
 論者ノ示ス所アルヲ俟ツノミ

第六章

内閣大臣

内閣大臣ハ 天皇ヲ補助シ奉リテ樞機ヲ司ト
ルノ重職ナリ 天皇ニ代リ國民ニ對シテ其責
ニ任スベキ事

文武百官ハ上ニ大臣ヨリ下モ輕吏ニ至ルマデ勅奏判任
等外ノ別ハアレモ孰モ皆 天皇陛下ノ命シ給フ所ナル
一言ヲ俟ザルナリ就中大臣ハ陛下ノ補弼トナリテ萬機
ヲ決スルノ重職ナレバ吾曹ガ第三章ノ初條ニ云タル如
ク國民ニ對シテハ政治ノ責任ニ當ラザルヘカラズ夫ノ
政治ハ責任ソノ人アルヲ要ス責任ソノ人ナケレバ國會
アリト雖モ議院アリト雖モ政治ノ利害得喪ニ關シ國民
ハ誰ニ向テ其過失ヲ讓ムルトセンヤ而シテ我建國ノ体

ニ於テ 天皇陛下ハ至尊ナリ神聖ナリ法ヲ以テ問ヒ奉
ルヘキニアラテ如何ナル場合タリモ政治ノ過失ヲ以
テ直ニ陛下ノ御身ニ歸シ奉ランハ勿体ナシ臣子タル者
ノ萬ニダモ成シ得ヘキニ非ザルナリ是レ大臣ナシテ
天皇陛下ニ代リ奉リ國民ニ對シテ其責ニ任ゼシムル所
以ナリ斯ク國民ニ對シテ責任ニ當ル以上ハ言フモ憚ア
ルコトナガラ陛下ニ對シ奉リテハ其責任ヲ第二段ニ置カ
ザル可カラズ例ハ和戰ノ決ニ際シ輿論ハ和ヲ主トシ
叙慮ハ戰ヲ主トシ給ハンニ大臣ハ叙慮ヲ体シテ戰議ヲ
採ルベキ乎將タ輿論ニ從テ和議ヲ採ルベキ乎叙慮ニモ
戻ラズ輿論ニモ背カザルハ得ベカラザルヲ以テ斷決ノ
時ニ臨ミテハ和議孰カ其一ニ依ラザルベカラズ叙慮ヲ
体シテ戰ヒ責ヲ輿論ニ得テ其職其身ヲ牲犠ニ供スルヲ

願ミズト覺悟スル乎若クハ飽クマデモ諫諍ヲ奉リ叡慮ニ戻ルモ輿論ノ歸スル所ニ從ハント覺悟スル乎ニ在ルモノナリ而シテ國民ニ對シテ責任アルノ大臣ハ即チ社稷ノ重臣ナレバ社稷ヲ重トスル大義ニ則トリ輿論ノ在ル所ハ敢テ叡慮ノマニク任セ奉ラザルコト其要務ナリトス天皇陛下ノ大權タル宣戰講和ノ備且ツ然リ況ヤ議院ノ決議ヲ要スルノ諸事ニ於テチヤ去レバ輿論ニ從フノ奏議ハ叡慮ニ好マセ給ハザル條タリモ陛下ハ大臣ノ請狀ヲ批准アラセ給フベク又輿論ニ違背スルノ大臣ハ寵遇信任ノ人タリモ之ヲ退ケ給フベキコト立憲政体ノ最要訣ナリト云フベシ

内閣大臣ハ上下兩院ノ議員ヨリ兼任セララル

ヲ得ベシ且ツ議員ヨリ兼任セサルモ大臣ハ何時ニテモ兩院ノ議席ニ就キ意見ヲ陳述スルヲ得ベシ但シ議決ノ數ニ與ルヲ得サルベキ事

凡ソ文武ノ常職アルモノハ議員タルベカラザルノ制ナレモ大臣ハ格別タルベシ現ニ大臣タル人ヲ新ニ選舉シテ議員タラシムルコトハ不都合ナレモ既ニ某府縣ノ議員トナリテ下院ニ參スルモノヲ勅命ニテ大臣ニ任シ給フニ當リテハ其府縣ニテ別ニ之ニ代ルノ新議員ヲ選舉セズシテ夫ノ大臣ヲシテ依然議員ヲ兼任セシムルハ苦シカラザルベシ海外ノ國ニテモ此例ヲ行ナヒ代議士ヲシテ大臣ヲ兼任セシムルヲ以テ選舉州郡ノ光榮ナリ帝室ニ對スルノ禮儀ナリト云フニ至ルト聽ク程ナレバ我國

ニ於テハ固ヨリ妨ナカルベキ事ナルベシ且ツヤ大臣ハ
國民ニ對シテ政治ノ責任ニ當ルノ人々ナレバ設ヒ議員
ノ職ヲ兼任セザルモ大臣タルモノハ上下兩院ニ出頭シ
テ議席ヲ占メ討論審議スルノ特權ナカラザルベカラズ
是レ實ニ君民同治ノ立憲政体國ニ於テハ不可欠ノ制定
ナリ然レモ其議員ニ非ザルヲ以テ議決ノ時ニ至リテハ
可否ノ數ニ加ハルヲ得ズ但シ議員兼任ノ大臣ハ議決ノ
數ニ加ハルヲ勿論ナルベシ

内閣大臣ニ失職ノ犯罪過失アル時ハ下院ハ之
ヲ糾彈スルノ權アリ或ハ其糾彈ヲ上院ニ請求
スルノ權アルベシ然レモ其裁判ハ高等法院・タ
ル上院ノ特有スル所タルベキ事

是レ大臣ノ國民ニ對シテ政治ノ責ニ任ズルノ實ヲ明示
スル要件ナリ若シ大臣ニ失職ノ罪犯過失アルヲ知ルモ
之ヲ糾彈シ之ヲ責罰スルノ權威ナクバ國民ノ參政權ハ
其結局ニ於テ遂ニ有名無實ノ形迹ニ陷ルベシ若シ強テ
其實ヲ得ント企テハ或ハ爲ニ騷擾ヲ醸シ兵亂ノ禍ヲ招
クニ至ランモ亦計ルベカラザルナリ苟モ此禍害ヲ未前
ニ防キ平和ノ政變ヲ以テ歸着ヲ求メント欲セバ必ラズ
ヤ憲法ヲ國約スルノ時ニ於テ豫メ此件ヲ制定スルヲ至
要トスルモノナリ例ハ大臣職務上ノ罪過アリテ之ヲ不
問ニ附スルヲ能ハザルモハ下院ハ之ヲ豫審シ彈糾スル
ノ權アルヲ以テ直ニ此議ヲ上奏シテ勅許ヲ請フベシ而
シテ陛下ニ於カセラレテモ必ラズ其請ヲ許サセ給フベ
シ寵臣ノ故ヲ以テ之ヲ保庇シ給ハンハ萬一ニモ有ラセ

給フマシキ御事ナリ此ノ勅許ヲ得バ下院ニ於テハ臨時
 糺彈局ヲ開キ其犯罪ナリ過失ナリト思惟スル條々ヲ豫
 審シ糺彈スルヲ得ベク或ハ此糺彈ヲ上院ニ請求シ上院
 ナシテ其手續ヲナサシムルヲ得ベシ但シ上院ニ於テモ
 此糺彈權アルヲ勿論ナリトス此糺彈ハ失職ノ糺彈ナレ
 バ自カラ尋常ノ治罪ト其法ヲ異ニスルヲ以テ之ヲ豫審
 判事或ハ檢察官ニ委任スベキニ非ズ又被糺彈大臣ニ辨
 護狀師ヲ許スニモ及バザルベキナリ斯クテ糺彈ノ上ニ
 テ大臣ノ分疏其宜ヲ得テ失職ニ非ズト議定セバ此上モ
 無キ仕合ナリ若シ失職ナリト定マラバ議院ハ告發人ト
 ナリテ之ヲ上院ニ訴フベシ上院ハ此訴ヲ得テ高等法院
 ナ開キ其罪過ノ有無ヲ斷シ之ヲ裁判スベシ如何ナル事
 情アルモ下院ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得ザルベキナリ此

糺彈ハ失職ノ罪過ニ限ルヲナレバ一旦免職ノ上ハ其人
 復々大臣ニ非ザルヲ以テ議院モ之ヲ糺彈スルノ權ヲ失
 フヘシ故ニ失職ノ事ヲ知シテ召シテ叡慮ヲ以テ直ニ其大
 臣ノ職ヲ免シ給ハハ格別ノ義ナリト雖モ大臣モシ糺彈
 ノ議起レリト聽キ或ハ糺彈中ニ辭表ヲ差出スヲアラバ
 時宜ニ應シ議院ヨリシテ其辭表ハ糺彈ヲ初ムルニ付キ
 或ハ糺彈ヲ終ル迄ハ御採用アラセ給ハザルヲ請願ス
 ルヲ得ヘシ是等ノ順序方法ハ善ク之ヲ詳密ニ制定スル
 一極テ緊要ナリト信ズ

第七章

司法

司法ノ大權ハ 天皇ノ掌握シ給フ所ナリ凡ソ

民刑ノ裁判ハ裁判官 天皇ノ命ヲ奉行スル者
トスベキ事

司法ノ大權ハ實ニ 天皇陛下コレヲ掌握アラセラレ敢
テ臣下ニ委子給フヘキモノニ非ザルナリ故ニ民事ノ詞
訟ヲ斷シ法律ニ照ラシテ責罰スルニ當リ國民ヲシテ其
判決ニ服從セシムルハ裁判所ノ權ニモアラズ裁判官ノ
權ニモアラズ裁判所ハ 天皇陛下ノ裁判所ニシテ其職
判官ハ 天皇陛下ノ命ヲ奉シテ判決宣告スルガ故ナリ
依テ上ハ大審院ヨリ下ハ違警罪裁判所ニ至ルマデ國法
ニヨリテ都テ 陛下ノ構成シ給フ裁判所ナリ 陛下ノ
御目代トシテ法律ヲ奉行スルノ裁判官ナリト心得ルコ
憲法ノ至要ナリ

裁判官ハ勅奏判任ノ別ナク皆 天皇ノ命シ給
フ所ナリ其官ハ終身官タルベキ事

是レ司法ノ獨立權ヲ鞏固ナラシムルニ不可欠ノ要訣ナ
リ立法行政司法ノ三權ト並ビ稱スレモ其實權ニ乏シキ
ハ司法權ナリ若シ司法ニシテ獨立スルコト能ハズバ三權
鼎立ノ實ハ烏有ニ歸センコト必定ナリ既ニ獨立ノ實ナク
バ惡ゾ其行政ノ爪牙トナリ官權ノ指顧タラザルヲ保セ
ンヤ司法ノ獨立セザルベカラザルヤ是ノ如シ夫レ然リ
而シテ之ヲ獨立セシムルノ方法ハ唯一ニ裁判官ヲ以テ
終身官トシ苟モ一旦裁判官ニ命ゼラレタル以上ハ其身
ニ罪ナキ間ハ終身奉職スベシ假ヒ 叙慮ニ適ハセラレ
ザル事アリモ裁判官ノミハ 勅命ヲ以テモ其職ヲ罷メ

シメ給フコハ成リ難シト憲法ニ於テ明ニ之ヲ制定スルニ在ルノミ此ノ制定アレバ裁判官タルモノ我身ニ罪過ナケレバ終身免職ノ恐ナシ免職ノ恐ナケレバ内ニ顧ミテ地ニ牽掣セラル、所ナキヲ以テ能ク方正嚴格ノ德ヲ保チ權豪ニ枉グ威武ニ屈セラレ情ヲ以テ法ヲ曲クルコト無ク執法者タルノ眞面目ヲ表ハスコトヲ得ベキナリ於是カ司法權ハ確乎トシテ獨立シ良民ノ爲ニ生命身體財産自由權理ヲ保護シ立法行政ノ兩權ト鼎立スルノ實ヲ失ハザルベキ也但シ治安判裁所即チ違警罪裁判所ノ判事ニ至リテハ其構成組織ノ都合ニヨリ之ヲ終身官トナスニモ及バザル歟是等ハ國憲制定ノ日ニ至リ其餘目ニ判然スベキ事ナルベシ

國民ノ訟ヲ聽キ罪ヲ斷スルハ法律ヲ以テ定メタル裁判所ニ於テ裁判官コレヲ奉行スベシ如何ナル場合タリモ臨時若クハ特別ノ裁判所ヲ開キ臨時若クハ特別ノ裁判官ヲ命シテ聽訟斷罪ノ事ヲ行ハシムベカラサル事

是件ヲ制定スルコト最モ國民ノ權理ヲ保護スルニ至要ナルベシ聽訟斷罪ノ場所ハ裁判所ノミ法律ニ於テ定メラレタル其人ハ裁判官ノミ之ヲ外ニシテハ國中ニ裁判所ヲ有スル所ナシトセザレバ文武ノ官吏ヲ擧テ國民ノ裁判官タルニ至ランモ亦異日ニ之ナキヲ保ス可ラザルナリ官權太ダ盛ナルノ國ニ於テハ犯罪ノ次第ニヨリテハ動モスレバ臨時裁判所ヲ開キ或ハ特別ノ法官ヲ命シテ

其罪ヲ斷ゼシムルコトアリ其便宜ヲ得テ且寛典ニ處セラ
 ル、ノ仁慈アルニモセヨサル設立ハ一步ヲ過テハ國民
 ノ安寧ヲ危クスル掛念アルコトナレバ憲法ニ於テハ如何
 ナル場合タリト之ヲ許ス可ラズ官權ヲシテ法權ヲ侵サ
 シムルノ門ヲ開クベカラザルナリ此制定ヲ欠カバ司法權
 ノ獨立モ大ニ微弱スル所アルベシ注意セザル可ラズ
 罪犯ノ訊問辯論ソノ事件公安ヲ害シ又ハ猥褻
 ニ涉リ風俗ヲ害スルノ恐アルモノヲ除クノ外
 ハ之ヲ公行シ裁判言渡ハ都テ之ヲ公行スベシ
 否ラサルキハ其言渡ノ効ナカルベキ事
 是レ法廷ヲ公開スルノ至要ノ關鍵ナリ現ニ治罪法公判
 ノ通則中此ノ明文アレバ別ニ憲法ニ載スルニモ及バザ

ルガ如クナレ思フニ治罪法ノ成文法律ハ立法官ノ議
 決ニヨリテ改正セラルベキ性質ナレバ異日如何ナル抑
 壓ノ立法官アリテ此條ヲ治罪法中ヨリ刪除センモ知ル
 ベカラズカ、ル大切ノ條ハ寧ロ之ヲ憲法ニ明示シ立法
 官ノ力ヲ以テスルモ之ヲ動カスベカラザルノ鞏固ナラ
 シムルニ若カザルナリ

裁判所ハ被告人カ辯論ノ爲ニ辯護人ヲ用フル
 コトヲ得セシムベシ陪審ヲシテ罪ヲ斷セシムベ
 シ辯護人ヲ許サス陪審ヲ置カサルノ裁判ハ其
 効ナカルヘキ事

被告人ハ辯論ノ爲ニ辯護人ヲ用フルコトヲ得トハ治罪法
 ニ見エタレト更ニ一步ヲ進メ辯護人ヲ許サザルノ裁判

ハ不正ナリトシテ其効ナガラシムヘシ又茲ニ陪審ヲシテ罪ヲ斷ゼシムベシト云ヒタルハ外國「ジュリー」ノ事ヲ指シタルノ謂ニシテ即チ國民中ヨリ定數ノ「ジュリー」ヲ舉ゲテ法廷ニ訊問辯論スル所ヲ聽カシメテ後ニ被告罪犯ノ有無ヲ斷ゼシメ無罪ト斷ズレバ之ヲ放免シ有罪若クハ何ノ罪ナリト斷ズレバ裁判官ソノ上ニテ擬律シ刑名ヲ宣告スルノ制ヲ立ンガ爲ナリ蓋シ陪審ノ制ハ未ダ我國今日ニ行ハレザル所ナレバ到底人權ヲ貴重スルノ第一義タル陪審ハ早晚コレヲ置カザルベカラザレバ憲法ヲ以テ之ヲ制定シ以テ我日本帝國ノ人民ヲシテ公衆ニ裁決セラレ、ノ自由ヲ得セシムヘシ但シ陪審ハ刑事ニノミ之ヲ置キ民事ニハ及ボサシメズシテ可ナルベシト思ハル

天皇ハ刑ヲ特赦シ刑ヲ減等スル大權ヲ有シ給フヘキ事

是レ帝位ノ神聖タルヲ表スルノ大權ナリ治罪法特赦ノ條々即チ其方法順序ヲ示スモノナリ夫レ法律ハ國民ノ因リテ以テ安チ保ツ所ナレバ苟モ法律ヲ犯スノ罪人ハ天皇陛下ノ勅旨タリテ有罪ヲシテ無罪ナリトシテ罪ヲ罔シ法ヲ紊リ給フヲ得ザルベシ然レバ其罪ヲ法廷ニ斷シ其刑ヲ言渡シタル上ニテ陛下其罪ヲ惡ミテ其人ヲ惡ミ給ハズ至仁至慈ノ聖意ヲ以テ之ヲ特赦セヨ減等セヨト御沙汰アラバ臣子タルモノイカデカ否ミ奉ルベキ速ニ之ヲ奉行センコト至當ナルベシ此ノ大權ハ外國ニ於テモ其憲法ヲ以テ帝王ノ大權ナリト制定スル程ナレ

ハマシテ我國ニ於テハ憲法ヲ國約スルノ日ニ當ラバ
陛下ノ大權ニ歸シテ神聖ヲ表シ奉ラザルベカラズ君民
同治ノ政体ニ於テ皇極ヲ建テ、君德ノ仁ヲ示スノ要ハ
憲ニ此事ニ在リト云フベシ

第八章

特法

勳位ニ叙シ綬章ヲ賜フハ 天皇ノ大權ナリ叙
賜ノ次第禮遇ノ制度等都テ 勅裁ニ依ルヘキ
事

天皇陛下ニハ庶人ヲ封シテ貴族ニ列セシメ給フノ大權
アリ文武百官ヲ統御シ給フ大權アレハ賞勳ノコモ亦一
ニ 勅裁ニ任セ奉リ凡ソ勳位ニ叙セラレ綬章ヲ賜リ一

身ノ勳功ヲ世上ニ表シ尊敬ヲ社會ニ得ルノ榮ハ即チ是
レ君恩ナリト云フヲ知ラシメザル可カラズ尊王ヲ體シ
民權ト並行ハル、ノ國体ニ於テハ此ノ大權ヲ陛下ニ歸
シ奉ラザル可カラザルナリ

復權ハ 天皇ノ大權ナリ凡ソ重罪ノ刑ニ處セ
ラレ終身其公權ヲ剝奪セラレタルモノハ大赦
若クハ特赦ニ因テ免罪ヲ得ルモ復權ハ 勅裁
ニ非サレハ之ヲ得ベカラザル事

刑法ノ刑例中ニ復權ノ一節アリテ此件ヲ備ニセリト雖
モ其 陛下ノ大權タルヲ以テ之ヲ憲法ニ載セ特赦ト復
權トハ自カラ其用ヲ異ニスルヲ明ニセサル可カラズ蓋
シ赦ハ其受クベキノ罪ヲ赦スニ止マリ復權ハ其既ニ失

フタル公權ヲ得ルニ在ルヲ以テナリ刑法ニハ大赦ニ因テ免罪ヲ得ルモノハ直ニ復權ヲ得トアリ國會ナキノ國ニ於テハ此法實ニ至當ナルベシト雖モ已ニ國會ヲ設ケ上下兩院ヲ開カル、以上ハ特赦コソ陛下ノ大權ニアレ大赦ノ典ニ至リテハ其事重大ナリ宜ク之ヲ國議ニ諮リ其可決ヲ得テ後ニ行ハセ給フベキヲ歟是レ吾曹カ大赦ニ因リテ免罪ヲ得ルモ復權ヲ得ズ復權ハ都テ勅裁ニアリト定メ之ヲ君恩ナリトスルヲ以テ國體ニ適スルコト思惟スル所以ナリ

凡ソ陸海ノ軍人ハ在職中ハ云フニ及ハス罷職停職ト雖モ其官位勳等ヲ帶ヒ例ニ依リテ恩給ヲ賜ハルノ恩榮ヲ有スヘキ事

是レ尙武ノ士氣ヲ振起シ國民ヲシテ凡ソ帝室ノ爲ニ國民ノ爲ニ尊王愛國ノ大義ニ由リテ陸海ノ軍役ニ從ヒ其身ヲ牲犧トスルヲ願ミザルノ忠勇ヲ旌表セシムルノ義ナリ軍人ニハ軍律ニ服從ノ義務アリテ其一身ノ自由權利サヘ自カラ常人ニ比スレハ檢束セラル、所アレハ之ニ酬ルニマタ常人ニ異ナルノ恩榮ヲ以テスルコト憲法ニ明示センハ極テ必要訣ナルヘシ

國債ハ國家ノ負債ナリ如何ナルコトアリモ政府ハ債主ニ對シテ其約ニ違フコトアルヘカラサル事

政府ノ信ハ國民ノ信ナリ國家ノ財用足ラザルノ急ニ當リテ募集セル國債ハ債主ニ對シテハ國民ソノ辨償義務

チ負擔スルモノナレハ設ヒ政變ニ過ヒ組織ヲ更ムルコ
アリモ國家ノ信ヲ債主ニ失フ可ラズ此信一タビ失ハハ
國民復タ誰ト與ニ立ツヘシトセンヤ此議太ダ分明ナリ
ト雖モ財政困難ヲ極メ如何モスヘカラサルノ場合ニ臨
メハ或ハ立法官ニ於テ棄捐法ヲ制定シ若クハ其年限ヲ
延若クハ其利息ヲ減ズルノ法ヲ制定セルコト問々外國ニ
モアルコトナレバ寧ロ之ヲ憲法ニ載セ立法官ヲシテ根本
大法トスルノ安全ナルニ如カザルナリ況ヤ國債ヲ起ス
ニ當リテハ先ツ其議ヲ下院ニ附シ下院ノ可決ヲ得テ上
院ニ付シ其可決ヲ得テ然ル後ニ募集スヘキモノナレハ
國民負擔ノ義務ハ當初ヨリ昭々タルニ於テチヤ

北海道千島沖繩縣並ニ屬地屬島ハ當分ノ間ハ

内地ニ異ナルノ制度ヲ以テ統御セララルヘキ事

今日ノ實際ニ於テハ此條蓋シ欠クヘカラサルノ制定ヲ
ルガ如シ其社會ノ漸ク開明ニ赴キ粗々内地ト同等ノ地
位ニ進ムヲ待テ後ニ同一ノ制度ヲ遵奉シ同一ノ權理
ヲ保有セシムルヲ長トスヘシ永久コレヲ區別センハ固
ヨリ不可ナリト雖モ今日ニ於テ直ニ内地同一ノ制度ヲ
履踐セシメバ却テ其民ヲ煩ニ爾ヘザルノ思アラシ
ムヘシ是レ吾曹ガ本條ヲ考定シタル所以ナリ然レモ憲
法ヲ國約スルノ日ニ臨マハ篤ク討論ヲ盡シ其年限順序
等ヲ密定スヘキノ問題ナルヘシ

府縣會ハ特別ノ國法ヲ以テ其綱領ヲ制定セラ
ルヘシ府縣ノ自治ハ之ヲ妨碍スヘカラサル事

地方分權ノ國是ヲ定ムルニ於テハ府縣會ノ設ナカラザル可カラザルハ敢テ吾輩ノ言ヲ俟タザルナリ畢竟自治ト云フコトハ府縣州郡ノ事ニアルモノト知レハ府縣會ヲシテ此ノ自治ノ樞機ヲラシメサル可カラス苟モ府縣會ナクハ府縣民自治ノ効モ無ク地方分權ノ力モ無ク全國細大ノ政治ヲ舉テ之ヲ中央政府ニ集メ中央集權ノ勢ニ傾向センコト必定ナリ此時ニ至テハ國會アリト雖モ決シテ中央集權ヲシテ地方分權ヲラシムルヲ得ザルヘキナリ夫ノ國會ト府縣會トハ其權域ヲ異ニスル迄ニテ素ヨリ優劣アルモノニアラズ國會ノ權域ハ府縣會ヨレテ侵スベカラザルガ如ク府縣會ノ權域ハ國會ト雖モコレヲ侵スコト能ハザルナリト制定スルニ非ザレバ地方分權ノ體要ヲ全備スルヲ得ズトス夫ノ國會サヘ設立セバ府縣

會ナキモ可ナリナド云フモノハ未ダ分權自治ノ國是第一義タルコトヲ覺ラザルノ見ナルノミ故ニ憲法ヲ國約スルニ當リテハ明文ヲ以テ府縣會ノ設立ヲ鞏固ナラシムヘシ中央政府ハ特別ノ國法ヲ以テ府縣會ノ爲ニ其設立組織權理ノ綱領ヲ制定スヘシ而シテ其條目ニ至リテハ府縣民ガ府知事縣令ト謀リ綱領ニ準據シテ之ヲ制定シ中央政府ノ認可ヲ得テ以テ其一府一縣ノ憲法トナスニ任セテ可ナルヘシ各地方其風俗習例ヲ異ニスルニ從テ自治ノ條目ヲ異ニスルハ自然ノ勢ナレバ之ヲ干涉シテ同一タラシメント欲スルハ即チ其自治ヲ妨碍スルノ結果タルベシ是レ本條ヲ以テ此分域ヲ明カニセント欲スル所以ナリ

國民ハ請願ヲ爲シ若クハ建議ヲ爲シ若クハ事
 ナ論シ志ヲ述ベシカ爲メニ平穩ナル社ヲ結ビ
 或ハ集會スルノ權理アルベシ但シ此權理ハ公
 利ヲ論シ公益ヲ謀リ若クハ自由ヲ保ツノ權理
 ナリト雖モ法律ニ於テ禁止セラレサル區域ニ
 限ルベキ事

是レ人支ノ自由ニシテ參政權ト並ビ立チテ偏廢スベカ
 ラザルノ權理ナリ日本國民ハ既ニ代議士ヲ選舉シテ立
 法權ヲ合掌セシムルト雖モ自己ノ政治思想マデナモ併
 セテ委託シ代議士アル以上ハ一切政論ヲナ、ザルベシ
 ト盟フモノニ非ズ議院ニ於テ直接ニ法律ヲ議定スルノ
 政權ヲ委任シタルノミ間接ニ政治上ノ思想ヲ懷キ其思

想ヲ吐露シ我代議士ヲシテ此ノ思想ヲ知ラシムルハ素
 ヨリ本分ノ自由ニアラズヤ立憲政體ノ自由國民ニハ政
 談ノ權理アリト云フハ是ノ謂ナリ然バ則チ國事ヲ論シ
 其志ヲ述ベンガ爲ニ結社集會ヲナスコトハ決シテ妨アル
 マシキ事ナリト云ハザルベカラズ況ヤ其ノ帝室或ハ議
 院ニ請願スル旨アリ建議スル條アリテ集議ヲ不得止ト
 スルノ場合ニ於テチヤ然レモ此結社集會ハ專一ニ平穩
 靜肅チ主旨トシ毫モ騷擾ノ振舞アルベカラズ若シ騷擾
 ノ振舞アリテ嗚呼ガマシク見ユルキハ即チ平穩ノ主旨
 チ失フモノナレバ行政權ノ威力ヲ以テ直ニ其集會ヲ解
 散セラル、モ不當ノ事ニアラズ且ツ此ノ集會權理ハ公
 利公益ヲ論議シ若クハ公衆一般或ハ公衆一部ノ自由ヲ
 保有スルニ出ルノ權理ナレバ法律ニテ禁止セラレザル

ノ區域ニ限ルヲ勿論ナリ若シ之ニ違テ不軌ヲ謀リ大逆ヲ企テ或ハ國家ヲ顛覆シ政府ヲ變壞スルノ議ニ涉ラバ法禁ノ許サザル所タルヲ以テ設ヒ其集會ノ体裁ハ平穩ナリト決テ其罪ヲ免カル、ヲ得ザルベシ何トナレバ本條ハ不正ノ集會ヲ曲庇スルノ精神ニ非ザルヲ以テナリ只々平穩ニシテ國安ヲ妨害セザルノ集會ハ憲法ニ於テ國民ノ保有スベキ權利ナリト心得テ可ナリ矣

國民ハ公衆ノ利害ニ關スルニ付キ其意見ヲ建議シ若クハ一個人或ハ數人ノ權利自由利益ヲ保護スルヲニ付キ請願ヲ爲スノ權利アルベキ事請願ノ權利ハ貴重ノ權利ナリ自由ノ人民ニハ不可欠ノ權利ナリ自己一身或ハ數人ノ權利ヲ伸ベ自由ヲ保チ利

益ヲ守ル爲ニハ帝室ニ政府ニ又ハ議院ニ其愁訴嘆願ノ書面ヲ呈スルヲ苦シカラザル義ナリ然レモ其請願ハ罪アルニ特赦ヲ乞ヒ或ハ特別ノ保護ヲ望ムガ如キ不正ノ願望ヲ云フニアラズ法律制度等ノ爲ニ我が有スベキノ權利ヲ失ヒ我が保ツベキノ自由ヲ枉セラレ我が得ベキノ利益ヲ奪ハレ奈何トスベカラザルノ時ニ於テノミ其請願ヲ爲スヲ得ベキナリ是ヲ適當ノ請願ト名クルナリ之ヲ容ル、ト容レザルトハ帝室政府議院ノ權ニアリト雖モ其容否ノ權ヲ以テ并テ受否ノ權ニ及ボシ請願ヲ受理セザルヲハ萬々有ルベカラザルナリ將タ公衆一般若クハ一部ノ利害ニ關スルヲニ付キテ意見アラバ之ヲ建議スルノ權利アルヲ同様タルヘシ到底我が爲ニスルヲ請願トシ他ノ爲ニスルヲ建議トシ俱ニ國民ヨリ之ヲ呈

スルノ權理アリト知ルヘシ而シテ此請願建議ハ集會ノ性質ヲ以テスルモ數人連署スルモ一個人ノ資格ヲ以テスルモ敢テ妨ナカルヘキナリ

國民ハ政治ニ關シテ其思想ヲ公衆ニ演說シ或ハ著書新聞紙ヲ以テ論出スルノ自由アルベシ但シ其言論ハ法律ニ於テ禁止セサル區域ニ限ルベキ事

是レ言論ノ自由ヲ保護スルノ條ナリ此ノ自由ハ政法ヲ以テ之ヲ錯制スヘカラザルノ自由ナレバ如何ナル場合ヨリモ全ク之ヲ禁止シ若クハ豫審スルコトアルヘカラズ不得已ノ時勢ニ當リテハ立法官ハ演說條例出版條例新聞紙條例ヲ制定シテ之ヲ檢束セザルヘカラザルコトアル

ヘシト雖モ是レ其目的ハ此ノ自由ヲ牽掣センガ爲ニ非ズシテ國家ノ安寧ヲ維持センガ爲ナルニ由リ其目的ヲ誤リテ他ノ自由ヲ妨害スルニ至リテハ太々憲法ノ精神ニ背クモノタルヘシ而シテ言論ノ自由モ亦法律ニテ禁止セラレザル區域ヲ踰エサルコト勿論ナルヘシ

天皇ハ此ノ國約憲法ヲ守ラセ給フ御事ヲ誓ハセ給フベシ御代々ノ天皇ハ御即位ノ初ニ同ク御誓アラセ給フベキ事

掛卷モ綾ニ異キ我 天皇陛下ニハ御踐祚ノ初ニ於テ廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ官武一途庶民ニ至ルマデ各其志ヲ遂ゲ人必チシテ倦マサラシメンコトヲ要ス舊來ノ陋習ヲ破

リ天地ノ公道ニ基クヘシ智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシト天地神明ニ誓ハセ給ヒヌ今ヤ此ノ憲法ハ御誓文ノ結果ナレバ御誓ノ空シカラサルハ之ヲ國約アラセ給フノ日ニ顯カナル御事ナレバ此ノ國約憲法ニハ御躬ヲ以テ衆ニ先シテ誓ハセ給ヒ大ニ斯ノ國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ立テ給ハン臣子ノ仰キ冀ヒ奉ル所ナリ而シテ我國三千五百万ノ臣子ハ謹テ 敎旨ヲ奉體シ死ヲ誓ヒテ憲法ヲ遵恪シ以テ王道ヲ顯彰シ以テ 宸襟ヲ安シ奉ラン一毫モ疑アラサルナリ國憲一たび制定セラル、時ハ萬不可止ノ事由アルニ非サレバ之ヲ更正スヘカラズ之ヲ更正スルモ國憲ハ天地帝統ト俱ニ不窮ナレバ御代々ノ天皇ニモ御即位ノ初ニ於テ憲法ヲ守ラセ給フノ御誓アラセ給フヘシト謹考スル也

結 言

以上八章ハ即チ我ガ憲法ヲ國約セララル、ノ時ニ於テ其基本タルベキ綱領ヲ開陳シ以テ大方諸賢ノ教ヲ請フ所ノモノナリ之ヲ外ニシテハ一般ノ罪犯ニ保釋ヲ許サルベキヲ保釋ヲ一般ニ停止スルハ 天皇陛下ノ大權ニアラセラルベキヲ國事犯及ヒ新聞條例犯ノ罪モ陪審ノ斷決ニ據ルハ常罪ニ同シカルベキ事學制ハ自由ヲ主トスベキヲ憲法ハ國議ヲ以テ之ヲ改正シ得ベキヲ等ノ諸條ノ如キハ皆不可欠ノ綱領タルベキ歟其餘ナホ諸賢ノ考案ニ依リテハ自カラ刪除増加ヲ要セラル、ノ點アルベキ固ヨリ然ルベシト信スルナリ將タ國憲制定ノ日ニ至ラバ此ノ綱領ノミヲ以テ完備トスベキニ非サレバ之ニ從テ生ズルノ條目ヲ制定シ或ハ直ニ之ヲ憲法中ニ挿入シ或ハ爲ニ副單ノ規則ヲ設

クル等ノ考案ナカラザルベカラズ其條目ニ關シテハ吾輩
 モ亦自説ノアルアレバ其時ニ臨ミテハ敢テ意見ヲ開陳シ
 再ヒ大方之教ヲ請フヲ怠ラザルベキ也
 此ノ國憲意見ハ吾輩ノ私見ナレバ未ダ以テ輿論ノ歸着ト
 スルニ足ラザルモノナリト雖ドモ熟々今日我國開明ノ風
 潮ニ進行スルノ勢ヲ察スレバ或ハ君權獨裁ノ政体ヲ墨守
 シ或ハ寡人政治ノ權宜ニ姑息シ或ハ聯立内閣ノ執中ニ因
 襲シ國安チ一時ニ謀ランガ爲ニ却テ民心ヲシテ倦マシム
 ルニ至ルヲ願ズシテ可ナリトスルノ時ニ非ラズ必ラズ早
 晩國民ヲシテ政治ニ參與スルノ權理ヲ得セシムヘキ改革
 ニ値ハザルヘカラズ此ノ改革之氣運ハ日ヲ逐ヒ月ヲ重ヌ
 ルニ從ヒテ旺盛ナルモ敢テ消滅スルモノニ非ザレバ吾輩
 ハ帝室ノ御爲ニ國民ノ爲ニ平和靜謐ノ改革ヲ希フノ外ニ

他事アラザルナリ而シテ平和靜謐ノ改革ヲ希ハンニハ氣
 運ノ旺盛ソノ度ヲ過ギテ潰裂シ復タ收拾スヘカラザルニ
 先チ一日モ早ク憲法ヲ國約シ以テ我國ヲ泰山ノ安ニ置ク
 ノ萬全良策タルヲ知ルナリ然リト雖モ我國ハ神國ナリ萬
 世一系ノ皇統ヲ以テ帝位ヲ承傳シ給フノ國ナレバ外國ノ
 例ヲ以テ等閑ノ憲法ヲ國約センコトハ努々アルヘカラザル
 義ナリ須ク我が建國ノ体ニ則リテ以テ智識ヲ世界ニ求メ
 テ國約憲法ヲ制定シ上ハ帝室ノ御稜威ヲ尊崇シ下ハ國民
 ノ權理ヲ貴重シ皇極ヲ建テ民極ヲ作スノ君民同治ヲ政体
 トシ我王道ヲ顯彰シ外ニシテハ國威ヲ皇張シテ對等ノ國
 權ヲ海外ニ保維シ内ニシテハ帝威民權並ヒ立チ上下心ヲ
 一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘキナリ是レ吾輩ガ忌諱ヲ憚ラ
 ズシテ意見ヲ開陳シ以テ國憲ヲ制定スルノ綱領ハ我國ニ

於テハ正ニ斯ノ如クナルヘント云ヘル所以ナリ
 大方諸賢ハ國憲ヲ制定スルノ綱領ハ正ニ斯ノ如クナルヘ
 シト疾ヨリ詳悉セラル、ヲ以テ吾曹ノ開陳ヲ要セザルヘ
 シト雖モ世上往々之ヲ詳悉セザルノ人多クシテ動モスレ
 バ國憲ヲ不急ナリトシ其制定迂遠ナリトスルノ説アルヲ
 奈何センヤ爾ノミナラズ守舊官權ヲ以テ尊王ノ義ナリト
 スル者ハ國會ハ臣民ヲシテ天子ノ大權ヲ壟斷セシムルノ
 場ナリ憲法ヲ國約スレバ帝位廢立ノ權ヲモ臣民ニ奪ハル
 ハ、ナリト思ヒ誤リ國憲ヲ制定シ國會ヲ開設センコト帝室
 ノ御爲ニハ由々シキ大事ナリト云ヒテ百方其議ヲ拒絕シ
 立憲論者ヲ見ル冠離ノ如キモノアリ又激烈急進ヲ以テ民
 權ノ要ナリトスル者ハ國會ヲサヘ興起セバ百般ノ制度法
 令細大ト無クミナ議院ニ出テ帝王將相百官百僚ミナ議院

ノ主權ニ制セラル、コナリト妄迷シ其甚シキニ至リテハ
 我 帝統ハ神種ニアズ我 帝位ハ神聖ニアラズト公言
 シテ憚ル所ヲ知ラズ皇極ヲ建ルノ議ヲ聽ケバ一概ニ之ヲ
 擯斥シ尊王論者ヲ見ル草芥ノ如キモノアリ二者皆非ナリ
 其一ハ皇極ヲ尊フノ心アレテ之ヲ建ルノ道ヲ知ラズ其一
 ハ民權ヲ重スルノ意アレテ其止ル所ヲ知ラザルガ故ニ彼
 ニ僻シ此ニ偏シ遂ニ俱ニ與ニ其身ヲ尊王ノ罪人タリ民權
 ノ罪人タル兩處ノ負門ニ置クモノナリト云フベシ然リ而
 シテ天下ノ廣キ豈ニ二者ノ徒ナカラシヤ吾曹茲ニ懼レテ
 此ノ國憲意見ヲ開陳シ其ノ綱領ハ正ニ斯ノ如クナルヲ示
 シ以テ亂臣賊子ヲシテ懼ル、所ヲ知ラシメント欲スルナ
 リ
 夫ノ國憲制定ハ天子之事ナリ我 天皇陛下ハ畏クモ御踐

祚ノ初ニ於テ五事ヲ天地神明ニ誓ハセテ大ニ國是ヲ定メ
 ントノ 敕旨ヲ天下ニ明カニシ給ヒヌ天下ノ臣民謹テ
 敕旨ヲ奉體シ仰ギテ御誓ノ成功ヲ待チ奉ル十年一日ノ如
 未ダ曾テ渝ラザルノミナラズ國憲制定ニ於ケル實ニ一
 千秋ノ思ヲ成ス臣子ノ分宜ク當ニ是ノ如クナルベキナ
 是レ吾曹ガ此ノ國憲意見ヲ開陳スルハ敢テ天子ノ事ヲ
 出スルニアラズ實ニ臣子ノ分ニ於テ篤ク 敕旨ヲ奉體ス
 ノ純忠至誠ニ出ルモノナリ此義天地神明ノ照覽スル所
 リ然レモ吾曹一個ノ私考ヲ以テ直ニ輿論ノ歸着ヲ全表
 スルヲ能ハザルガ故ニ苟モ我開陳スル所ニシテ不可ナリ
 セバ大方諸賢毫モ吾曹ニ恕スルヲ勿レ天下公衆ノ爲ニ
 ス。ベキハ詳ニ之ヲ駁シ誨フベキハ備ニ之ヲ誨ヘヨ吾曹
 フベキハ謹テ之ニ對ヘ受クベキハ敬テ之ヲ受ケン今之

時ハ豈ニ自說ニ執拗シテ天下ノ大事ヲ誤ルベキノ時ナラ
 ンヤ冀クハ尊王論者ハ皇極ヲ建ルノ道ハ此ノ國憲ノ制定
 ニ在ルヲ知レ民權論者ハ民極ヲ作スノ法ハ此ノ國憲制定
 ニ在ルヲ知レヨ此ノ國憲ハ帝威民權並ヒ行ハレテ我王道
 ナ上下内外ニ顯彰スルノ根本大法ナリ此ノ大法ノ制定ヲ
 不急ナリトシ帝威ヲ漫ニシテ民權ヲ罔シ此ノ大法ノ制定
 ナ迂遠ナリトシ民極ヲ恣ニシテ皇極ヲ犯サシメント欲ス
 ル者ハ罪ヲ我王道ニ得ルノ亂臣賊子ナリ尊王愛國ノ忠臣
 義士ニ非ザル也ト云爾

(畢)

明治十五年十月十一日御届
同 同月廿八日出版

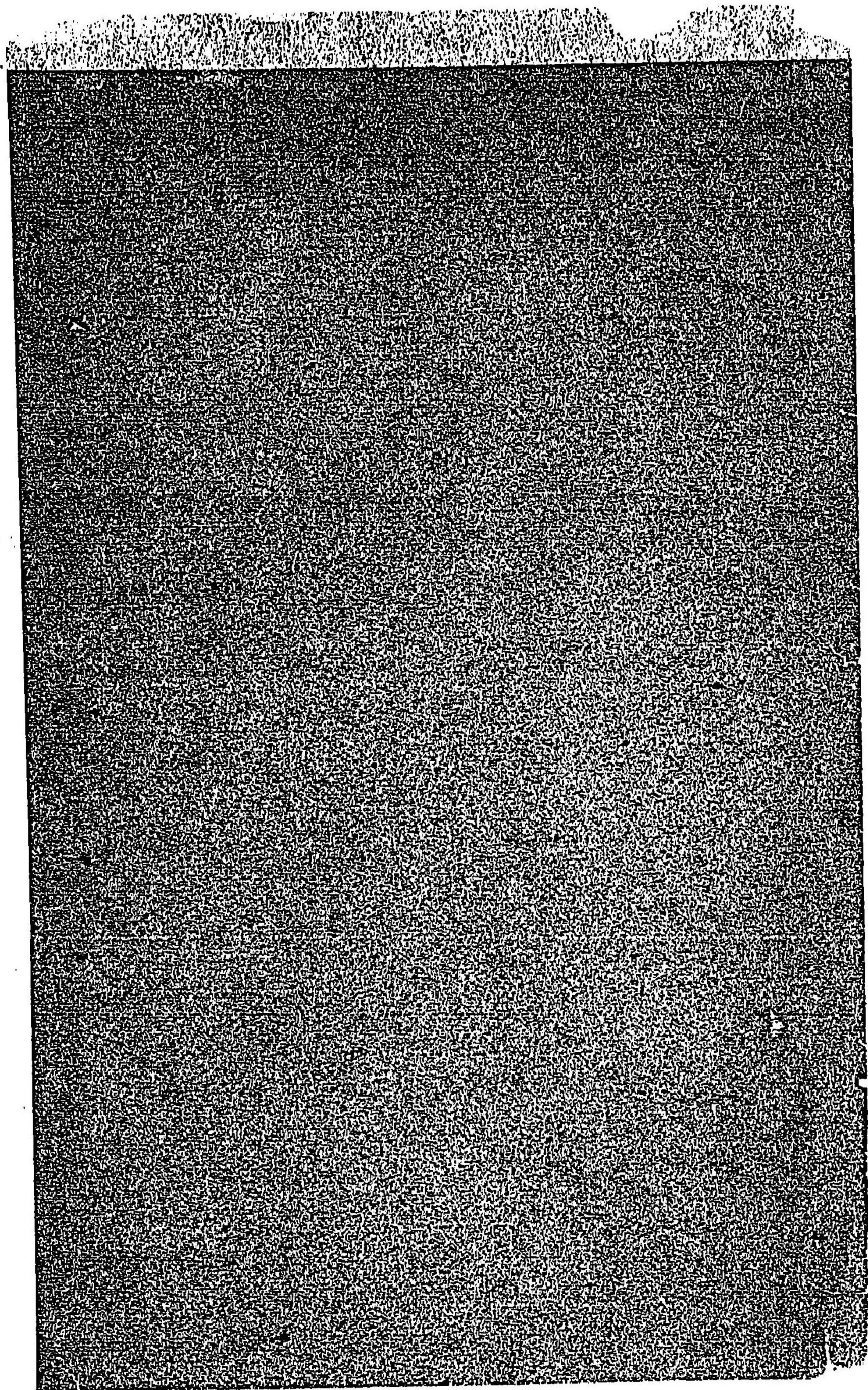
三重縣士族

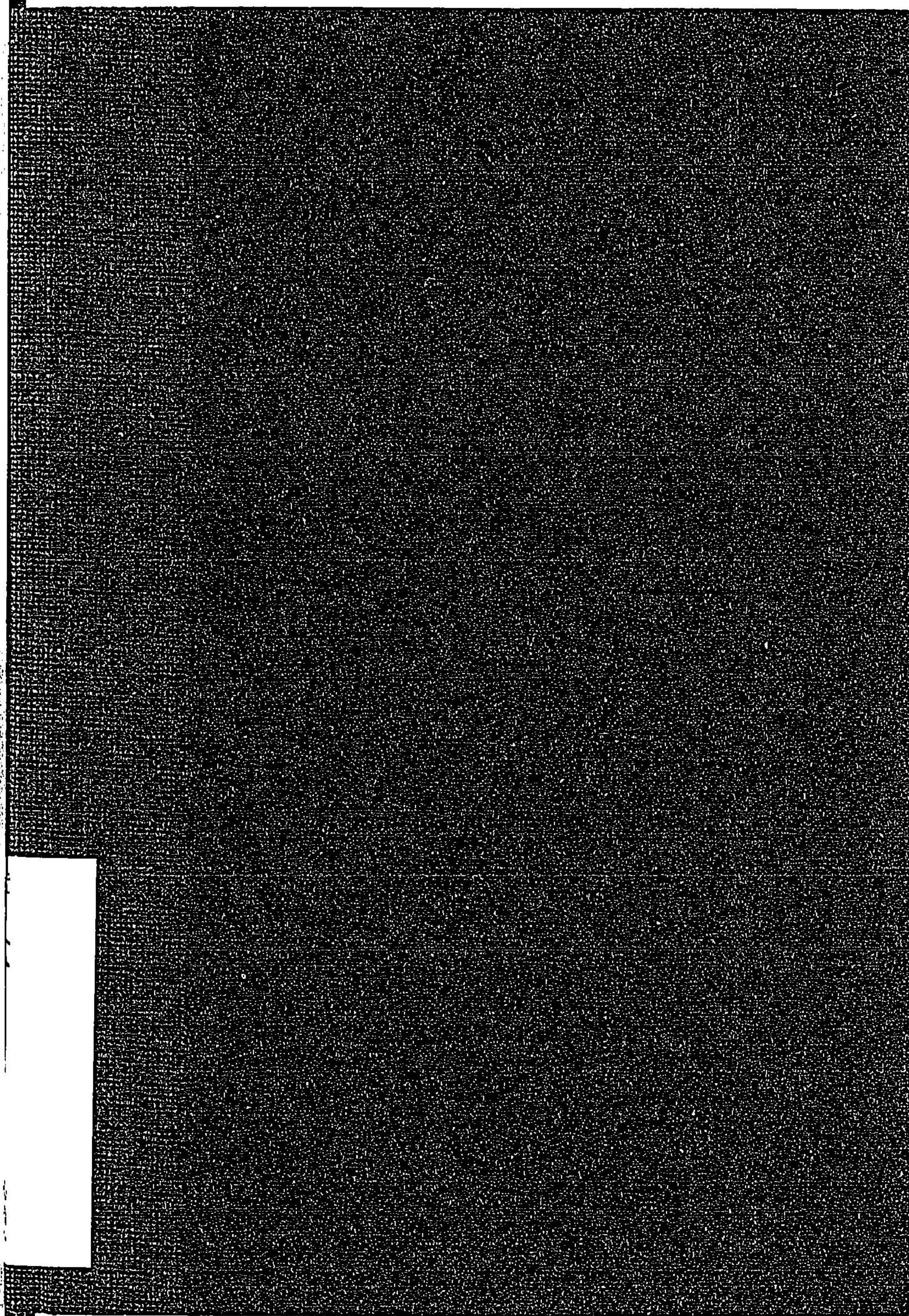
編輯
出版
人兼

森 喜代治

伊勢國安濃郡刑部村
五拾壹番地

宛
伊勢國安濃郡刑部村
五拾壹番地





特 14

971

国憲意見

国立国会図書館

031569-000-8

特14-971

国憲意見

森 喜代治 / 編

M15

BBE-0188

